

漁 業 部

(第 4 報)

東支那海サバはね釣漁況

漁 業 部

資料は鹿児島市中央卸売市場の仕切伝票（入港船144隻 2,442,035Kg）と聴取調査（97隻 1,892,430Kg）によつた。本年度は11月中、下旬（農林漁区534）でやゝ好漁をみたのみで、1月下旬539区に膠着し4月下旬から西進して549区に移り6月上旬をもつて終漁した。

（第1表、第1図参照）

鹿児島港水揚量 (Kg)

年 度	入 港 船	同 %	水 揚 量 (Kg)	同 %	1隻平均水揚量 (Kg)	同 %
32	1,006	100	24,573,191	100	24,423	100
33	938	93	19,583,950	79	20,878	85
34	547	54	10,515,671	42	19,224	78
35	144	14	2,442,035	9	16,958	69

標本船聴取調査

年 度	1夜1隻平均漁獲量 (Kg)	同 %	1夜1人平均漁獲量 (Kg)	同 %
52	5,209	100	131	100
33	3,568	68	94	71
34	3,080	59	94	71
35	2,832	54	90	68

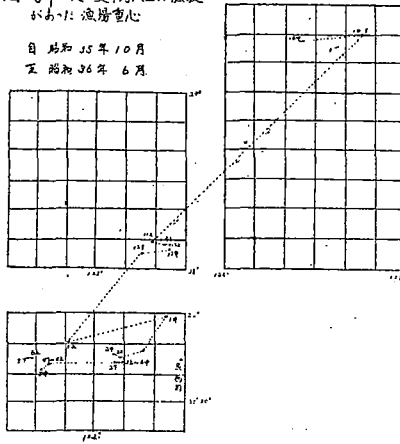
上表の如く最盛期の昭和32年度に比し就航船と総漁獲量の激減が目立つが、1航海1隻平均水揚量並びに沖合における1夜1隻平均漁獲量は大体50~70%に踏みとどまっている。

第 1 表 漁場重心の移動

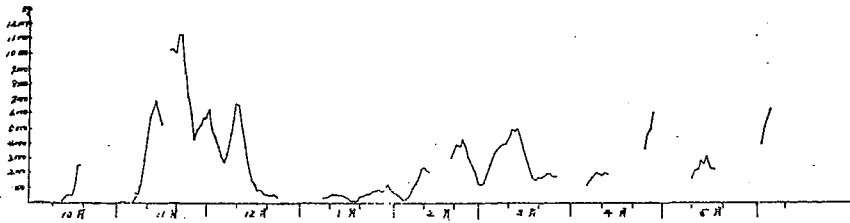
年月	旬	北緯	東経	年月	旬	北緯	東経
35. 10	中	29°-17'	126°-24'	36. 2	中	25°-46'	123°-06'
	下	29-20	126-45		下	25-44	123-06
11	上	28-09	123-18	3	上	25-44	123-08
	中	28-08	123-22		中	25-44	123-08
	下	28-08	123-22		下	25-44	123-08
12	上	28-08	123-24	4	上	25-44	123-08
	中	28-07	123-24		中	25-44	123-08
	下	28-05	123-15		下	25-44	122-44
36. 1	上	25-50	122-50	5	上	25-44	122-44
	中	25-59	123-24		中	25-41	122-41
	下	25-47	123-15		下	25-45	122-37
	上	25-45	123-07	6	上	25-45	122-38

第1図 旬中一夜一隻平均以上の漁獲
があった漁場中心

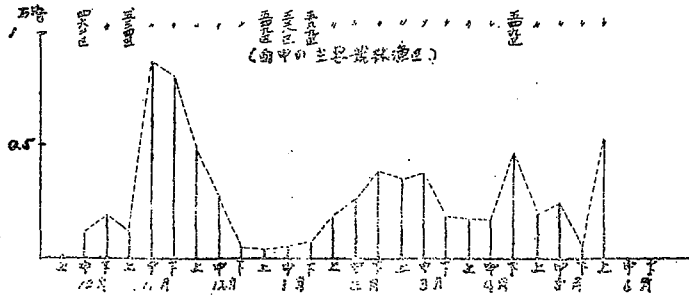
自昭和35年10月
至昭和36年6月



第2図
東京湾沖合に占めるサバ漁獲漁区(先! 夏平均漁獲高の) 5日移動平均
昭和35年10月 ~ 36年6月



第3図 旬間平均1夜1隻漁獲量と主要漁区との対比
自35年10月 至36年6月



才 2 表

東支那海沖合に於ける

年月 項目 日	昭和 35 年 10 月					昭和 35 年 11 月					昭和 35 年 12 月				
	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
1											4	18,800	139	4,700	135
2											5	20,200	176	4,040	114
3						1	0	42	0	0	4	18,100	143	4,525	126
4						2	0	74	0	0	4	29,800	149	7,450	200
5						2	0	74	0	0	4	7,700	149	1,925	51
6						2	0	74	0	0	3	3,800	117	1,266	32
7						3	900	108	300	8	3	3,800	112	1,266	33
8						5	4,600	178	920	25	4	10,300	145	2,575	71
9						5	7,200	178	1,440	40	5	51,100	177	10,220	288
10						5	16,600	178	3,320	93	7	49,300	234	7,042	210
11	1	0	50	0	0	5	41,600	178	8,320	238	7	55,100	234	7,871	235
12	1	0	50	0	0	5	40,500	178	8,100	227	7	41,800	234	5,971	178
13	1	100	50	100	2	3	21,700	104	7,233	208	7	15,400	239	2,200	64
14	1	100	50	100	2	2	7,100	70	3,550	101	6	14,700	206	2,450	71
15	1	0	50	0	0						8	5,900	283	737	20
16	1	1,500	50	1,500	30						7	14,700	263	2,100	55
17	1	1,100	50	1,100	22						6	4,900	227	816	21
18	1	0	50	0	0	1	5,600	39	5,600	143	3	2,500	109	833	22
19	1	1,900	50	1,900	38	2	20,600	73	10,300	282	3	1,500	114	500	13
20	1	7,900	50	7,900	158	4	60,300	136	15,075	443	5	3,100	187	620	16
21	1	1,900	50	1,900	38	4	42,300	136	10,575	311	5	3,600	190	720	18
22						5	46,900	171	9,380	274	4	1,500	154	375	9
23						2	22,600	74	11,300	305	4	2,800	154	700	18
24						2	21,300	65	10,650	327	4	3,600	154	900	23
25						2	4,900	65	2,450	75	2	0	80	0	0
26						1	2,000	35	2,000	57	2	400	80	200	5
27						1	3,700	30	3,700	123					
28						1	3,000	30	3,000	100					
29						3	40,500	95	13,500	426					
30						4	15,600	139	3,900	112					
31															
計	11	14,500	550	1,318	26	70	408,900	2451	5,841	166	123	384,400	4,449	3,125	86

日々のサバ跳釣漁況

A 隻数
 B 水揚量吨
 C 操業人員
 D 1夜1隻当吨
 E 1船1人当吨

昭和36年1月					昭和36年2月					昭和36年3月				
A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
					2	0	65	0	0	1	700	32	700	21
					4	700	130	175	5	1	700	32	700	21
					5	800	160	160	5	1	1,500	32	1,500	46
					6	2,700	190	450	14	1	2,600	29	2,600	90
					6	2,500	190	416	13	2	8,000	59	4,000	135
4	0	131	0	0	6	2,700	190	450	14	3	13,500	88	4,500	153
5	0	167	0	0	8	11,800	260	1,475	45	3	11,700	88	3,900	132
5	1,570	167	314	9	8	16,300	264	2,037	61	5	13,200	142	2,640	92
6	6,750	199	1,125	33	9	20,000	299	2,222	66	8	34,400	223	4,300	154
7	5,000	217	714	23	7	15,400	233	2,200	66	8	34,000	223	4,250	152
7	2,400	209	342	11	4	15,200	139	3,800	109	6	32,100	164	5,350	195
7	2,800	209	400	13	3	7,000	98	2,333	71	6	33,200	164	5,533	202
8	5,900	241	737	24	1	700	34	700	20	5	27,900	135	5,580	206
7	6,500	205	928	31	1	1,100	34	1,100	32	4	17,100	105	4,275	162
6	2,900	174	483	16						3	13,700	81	4,566	169
3	500	74	166	6						3	7,800	68	2,600	114
2	200	42	100	4	1	3,000	32	3,000	93	1	1,200	15	1,200	80
					3	8,400	93	2,800	90	3	7,800	77	2,600	101
1	100	31	100	3	3	10,100	93	3,366	108	4	6,000	107	1,500	56
2	400	67	200	5	4	7,500	120	1,875	72	5	6,800	136	1,360	50
2	200	67	100	2	5	20,600	145	4,120	142	5	8,600	150	1,720	57
3	4,800	99	1,600	48	5	26,700	145	5,340	184	5	10,800	150	2,160	72
3	1,500	99	500	15	4	19,400	113	4,850	171	5	10,900	150	2,180	72
4	3,200	135	800	23	3	8,600	84	2,866	102	5	9,300	150	1,860	62
4	1,800	135	450	13	3	14,100	84	4,700	167	5	12,500	150	2,500	83
4	3,300	135	825	24	2	3,600	57	1,800	63	4	7,000	118	1,750	59
3	4,400	104	1,466	42	2	4,400	57	2,200	77	2	2,000	59	1,000	33
4	5,300	131	1,325	40	1	1,800	32	1,800	56	1	2,100	29	2,100	72
4	1,500	131	375	11										
2	1,900	63	950	30										
1	2,000	27	2,000	74										
104	64,920	3,259	624	19	106	225,100	3,341	2,123	67	105	337,100	2,956	3,210	114

年月 項目 日	昭和36年4月					昭和36年5月					昭和36年6月				
	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
1											4	8,900	103	2,225	86
2											4	22,300	103	5,575	216
3	1	100	18	100	5						4	25,900	103	6,475	251
4	2	1,600	48	800	33						3	16,600	76	5,533	218
5	4	3,900	111	975	35						3	15,800	76	5,266	207
6	5	11,400	152	2,280	75						2	12,100	52	6,050	232
7	5	11,100	141	2,220	78										
8	5	7,900	141	1,580	56	1	1,800	26	1,800	69					
9	5	11,000	141	2,200	78	4	4,800	108	1,200	44					
10	5	12,800	141	2,560	90	4	2,500	108	625	23					
11	5	8,200	141	1,640	58	4	14,100	108	3,525	130					
12	5	9,100	141	1,820	64	4	5,900	108	1,475	54					
13	5	11,700	141	2,340	82	4	17,500	108	4,375	162					
14	3	4,100	82	1,366	50	4	6,300	108	1,575	58					
15						4	14,400	108	3,600	133					
16						4	9,600	108	2,400	88					
17						1	4,500	28	4,500	160	月計				
18						2	180	38	90	4	21	109,900	538	5,233	204
19						2	1,980	38	990	52					
20															
21															
22	3	4,000	67	1,333	59	1	0	23	0	0					
23	5	21,100	120	4,220	175	1	0	23	0	0					
24	5	16,800	120	3,360	140	1	0	23	0	0					
25	5	20,100	120	4,020	167										
26	5	29,100	120	5,820	242										
27	5	29,800	120	5,960	248										
28	5	30,600	120	6,120	255										
29	2	17,500	53	8,750	330										
30															
31						2	2,150	51	1,075	42	総計				
計	85	261,900	2,238	3,081	117	43	85,710	1,114	1,993	76	668	1,892,430	20,896	2,832	90

才 3 表 鹿 児 島 港 水 揚 量

	旬	隻数	水 揚 量 kg	1隻平均水揚量kg	水揚金額 円
35年10月	下	2	19,128	9,564	
	計	2	19,128	9,564	
11月	上	3	23,211	7,737	1,465,784
	中	4	67,158	16,789	3,428,941
	下	6	162,061	27,010	6,620,407
	計	13	252,430	19,417	11,515,132
12月	上	4	99,113	24,778	6,917,208
	中	19	485,044	25,528	22,810,576
	下	21	128,239	6,106	8,468,867
	計	44	712,396	16,190	38,196,651
36年 1月	上	1	900	900	79,900
	中	7	29,330	4,190	1,889,272
	下	9	17,192	1,910	829,348
	計	17	47,422	2,789	2,798,520
2月	上	5	49,218	9,843	2,685,170
	中	10	278,349	27,834	5,769,571
	下	3	45,167	15,055	1,900,803
	計	18	372,734	20,707	10,355,544
3月	上	4	94,444	23,611	4,035,714
	中	7	168,511	24,073	7,967,361
	下	5	93,563	18,712	4,761,418
	計	16	356,518	22,282	16,764,493
4月	上	4	57,922	14,480	3,261,689
	中	6	84,178	14,029	3,864,545
	下	1	7,309	7,309	377,620
	計	11	149,409	13,582	7,503,854
5月	上	9	268,040	29,782	11,687,475
	中	5	94,763	18,952	3,983,987
	下	3	45,667	15,222	1,959,778
	計	17	408,470	24,027	17,631,240
6月	上	1	28,422	28,422	1,251,580
	中	3	79,987	6,662	3,511,499
	下	2	15,119	7,559	721,874
	計	6	123,528	20,588	5,484,953
合 計		144	2,442,035	16,958	

月別の漁況概要

昭和 35 年 10 月

10月鹿児島入港船は1隻、漁獲高14,500kg（航海日数操業日数11日）で例年の初漁期に比べて不振である。漁場は29°-25'N、126°-40'E中心の462区でその後漁なく、11月中旬以降28°-50'N、123°-10'E付近の534区に漁場は形成され、1晩3,000-5,000kgのかなりの漁模様である。今後の見透しは東海サバ漁場の海況として重要視される大陸沿岸水の張り出しも534区付近に舌端が見られ、水温も下降が著しいので、当分534区近海が好漁場かと推察される。

過去の10月の漁場を調べれば、32-33年は503区、34-35年が462区を中心に形成されている。魚体は別図に31-35年の5ヶ年分10月組成を示すが、本年度は過去5ヶ年中一番小さい魚体となつている。

昭和 35 年 11 月

今年の東支那海サバはね釣は初出漁がおくれ漁況も例年に比べ不振であつたことから、その後の出漁船もわずか12月上旬までは5隻で操業されたにすぎない。

旬	入港船数	平均操業日数	水揚数量
11月中旬	5	8日	140,390kg
11月下旬	5	4日	219,100
12月上旬	5	6日	147,350

漁場は初期から現在まで殆んど変わらず、28°-08'N、123°-26'Eを中心とする534区で集中操業されている。漁況はかなり好漁をみせ11月中旬は1夜1隻5屯程度、下旬には10屯と好況を呈し、各船3日連続しているが、12月上旬には5屯程度におちついている。漁場は当分この海域で継続されそうであるが、10月から12月上旬にかけての過去の漁場移動をみると、33年は503区から525、535区へと南下し、12月には504、494区へとさらに東部へ拡大している。

34年は462区から525、535区へと下り12月には、33年と同じ移動傾向で515、505区へと操業区域が拡大している。魚体については、10月の初期には290mmのモードがみられた。過去5ヶ年中一番小型となつていたが、その後の調査では295、320mmの2つにモードがみられるようで、320mmの方が数的に上回り、中型魚が目立つてきた。

昭和 35 年 12 月

東海サバ漁況

鹿児島入港船 12月

旬	隻	水揚量
上旬	4	120,300kg
中旬	11	275,400
下旬	8	57,200

例年なら東海サバ盛漁期にあたる12月も本年は初漁期のおくれと共に、10隻余りの非常に少ない出漁船しかなく、淋しい漁況に終つている。漁場は先月に引き続き534区に形成され、依然として28°-10'N、123°-25'E付近にて集中操業をなし好漁は水深80m位で狭い区域に限られている。漁場を例年と比較すれば33年は525、535区から515、505区へと操業区域が拡大されているが、本年では前記534区以外は漁場として形成されていない。漁場は上旬、中旬前半まではかなり好漁（34年12月は1隻1夜当り漁獲量2,483kg、1人1夜当り漁獲量67kg、35年12月は1隻1夜

当3,125kg 1人1夜当り86 kg)を見せていたが中旬後半以降全くの不漁となり皆無に等しい。12月前半は魚群反応は認めるが、浮上に難があつたが後半は魚群反応すら認めていない船もある。水温は11月以降次第に下降が顕著となり534区で20～19°Cを記録している。特に後半は一時季節風が全海域にわたつて吹いたので操業困難な日も続き、水色にも難が見出されている。魚体はFLで11月295mm 320mmの2つにモードが見られる双峯型であつたが12月調査では、320mm～330mmにモードをもつ単峯型となり300mm以下の小型魚の減少がうかがわれる。魚体について過去8ケ年同期のものを別図に示し比較すれば同程度か又は大型魚が目立つ。今後の漁場移動としては東海中央部の漁場化は望めそうもなく、昨年同様魚釣島周辺への移動が強くなりそうである。

昭和36年1月

1月東海サバはね釣は全くの不漁である。本年の特徴として出漁船の減少漁獲量の低下を前号まで記載してきたが、1月は東海サバはね釣開始(昭和28年)以来の不漁である。漁場は上旬28°-20'N 123°-40'E附近の534区でわずかに漁獲されただけで、27°以北124°以西を広い範囲に探索しているが魚群を探知出来ず、25°40'～50'N 122°30'～123°20'E海域即魚釣島北西域に大きく移動をなした。昨年魚釣島漁場への移動は2月上旬であり約1ヶ月間早く移動している又台湾東方の蘇澳沖にも出漁しているが、未だ漁場形成には至っていない。漁況は後述入港船調査も最低のようには沖合では皆無か100～400kg(1夜当)程度の淋しい漁況である。魚群記録では中層及び底層には、反応を認めても魚群の浮上がなく天秤釣で操業している船もある。魚体は310～320mmにモードをもつ中型魚であり例年よりやや小型となつている。(昨年のモードは320～330mm)魚釣島初期の魚体は例年330～340mm中心の大型魚となつているので小型魚の出現は漁況の不漁と共に何らかの意味をもつと思われる。今後の漁場漁況の予想としては漁場は魚釣島近海となり漁況も昨年同様2月以降は次第に好転?するのではないかと考えられる。

1月鹿兒島港入港船調査

旬	入港船	漁獲量
上旬	1	800 kg
中旬	7	33,200
下旬	11	22,900
計	19	56,900

昭和36年2月

東海サバはね釣漁況が近年にない不漁であるのは既に述べたとおりであるが、2月に入つても依然として進展は認められなかつた。漁場は1月には525,534,535,536附近と魚釣島近海の528,529,538,539,549附近に形成されているが、2月に入ると525,534～536附近は漁況不振となり539区に集中している。一般に魚群は薄いように入港船も毎夜10隻内外にすぎない状態であつた。別表は35年2月と36年2月の沖合漁況を比較したものであるが、漁獲量で凡そ $\frac{1}{5}$ 、1夜1人当り漁獲量も約 $\frac{1}{2}$ 程度となつている。次に体長組成をみると別図のとおりで30～33

cmのものが大部分をしめている。今後漁場の移動或は漁況の著しい進展は考えられそうになく、当分魚釣島近海で漁は続きそうである。

昭和 36 年 3 月

漁場は引続き魚釣島 N W 18' ~ 22' 附近の水深 100 ~ 200 m の極く限られた海域となつて出漁船は僅か 9 隻であるが漁況は 2 月より好転し 1 航海 15,000 kg ~ 30,000 kg の漁獲をなし昨年同期と同程度である。昨年来より魚釣島周辺漁場が東海サバはね釣漁船で操業しているが昔日においては串木野根掘まぐる延縄船の餌料用サバ漁場であつたが当時は魚釣島 N E 17' ~ 20' 附近で現在の漁場とは逆方位である。現在の漁場の形成される地形は 100 m より 200 m、300 m の深みにおちる縁で映像を認めている。浮上は比較的良好であるが餌付は、浮上後一時は良好であるが次第に悪くなる傾向がある。魚体は 31 cm にモードを有する中サバが大部分で昨年見られた大サバは今年は漁獲されていない。生殖腺は放卵中のものが大部分である。水温は 23.0 °C 台で昨年よりやや低目となつている。

昭和 36 年 4 月

漁場は中旬頃までは魚釣島西方 17° ~ 24' 位の極く狭い海域であつたが、その後 25° ~ 40' N、122° ~ 30' E 中心の 549 区へ移動をなしている過去の漁場移動では 549 区漁場形成は昭和 34 年 1 月、2 月、35 年は終漁期の 5 月に漁場となつている。漁況は前月よりやや低調であるが、その主なものは操業船減少による魚群の探索に時間を費すことが多くなつた事や、魚群の浮上餌付の不良もあげられる。漁場移動に伴う魚体の変化はやや小型魚となり平均 FL は 30 cm 程度である。

昭和 36 年 5 月

4 月鹿児島港水揚量

旬	入港隻数	水揚量	1 隻平均
上旬	4	17,922	4,480
中旬	6	8,4178	14,029
下旬	1	7,309	7,309
計	11	109,409	9,946

漁場は 25° - 45' N、122° - 35' E 中心の 549 区に集中している。5 月入港船は 15 隻 386、150 kg で昨年同月の 40 隻 1,289,327 kg に較べれば急減している。漁場の移動は昨年同様であり漁況は魚群濃密で浮上餌付共やや良好であるが操業船僅少の為他の海区の漁場は探索をしなめて操業区域は極めて狭い範囲である。水温は 23 ~ 24 °C を示し特に 5 月は台風その他気象要因で大きく変化し、又天候不良のため操業日数の低下をもたらしている。魚体は凡そ 30 ~ 32 cm にモードを有する中サバが大部分で生殖腺は放卵後のものが多い。

才 4 表

鹿 児 島 入 港 船

県	船 名	噸	HP	乗組員	航 海 数		
					35年10月	11月	12月
鹿 児 島	清 海	60	180	30			
	5 金 比 羅	60	180	36		1	3
	8 栄	67	180	32	1	3	3
	3 姫 芳 面	64	180	34		2	3
	1 東 豊 徳	99	310			3	3
	豊 徳 漁	83	220	34			1
	豊 徳 漁	59	220	37			2
	計 8	79	210	18			1
宮 崎	8 共 和	132	330	50	1	3	2
	5 共 和	97	350	29		1	1
計 2							
大 分	1 豊 洋	82	275	33			2
	3 善 幸	86	220	36			1
	2 富 士	160	350	25			1
	21 伊 予	78	210				2
	23 伊 予	92	270				2
計 4	98	350				2	
香 川	11 共 住 和 栄	82		31			1
	計 2			32			
兵 庫	1 兵 庫	100	290	35			1
	5 琴 浦	99	250	38			3
	3 稲 荷	99	320	36			1
	11 豊 国	89	275	40			2
	計 5	150	420	37			1
福 島	5 康 正	84	270				
	2 興 洋	84	270				
	計 2						
	2 勢 正	84	280	35			
宮 城	11 正 一	80	250	41			
	明 神	83	300	30			
	八 磯	98	320	24			
	計 4						
不 明	3 明 栄 子						1
	計 2						1
合 計	32 隻				2	13	44

県	船名	航 海 数						
		36年1月	2月	3月	4月	5月	6月	計
鹿 児 島	清 海	1	1	2	1	5	1	12
	5 金 比 羅	1	1	2	2	2		14
	8 栄	1	1	3	1	1	2	15
	3 姫 東 芳 亜 徳	1	2	1		2		12
	1 東 豊 豊 大	2	1	2	2	3	1	3
		1	1	2	2	3	1	12
		1	1	2	2	3	1	1
	計 8							1
宮 崎	8 共 和	1	1					8
	5 共 和		1					3
大 分	1 豊 洋	1	1	2	1	2		9
	3 善 幸	1	2	1	1	1		7
熊 本	2 富 士 子		1	1	2	2		7
	23 伊 子	1						3
	31 伊 子	1						3
	計 4							2
香 川	11 共 和 栄							1
	計 2	1						1
兵 庫	1 兵 庫	1	1	2	1	2	2	10
	5 琴 浦 荷 国							3
	3 稲 荷 国							1
	11 豊 快 春							2
	11 快 春							1
計 5							3	
福 島	5 康 正 洋	1						1
	2 興 2		1					1
宮 城	2 勢 正 一		1					1
	11 正 明 八	1						1
		1	1					1
	計 4							2
不 明	3 明 栄 子							1
	計 2		1					2
合 計	32 隻	17	18	16	11	17	6	144

前頁より

東海さば漁況及海況

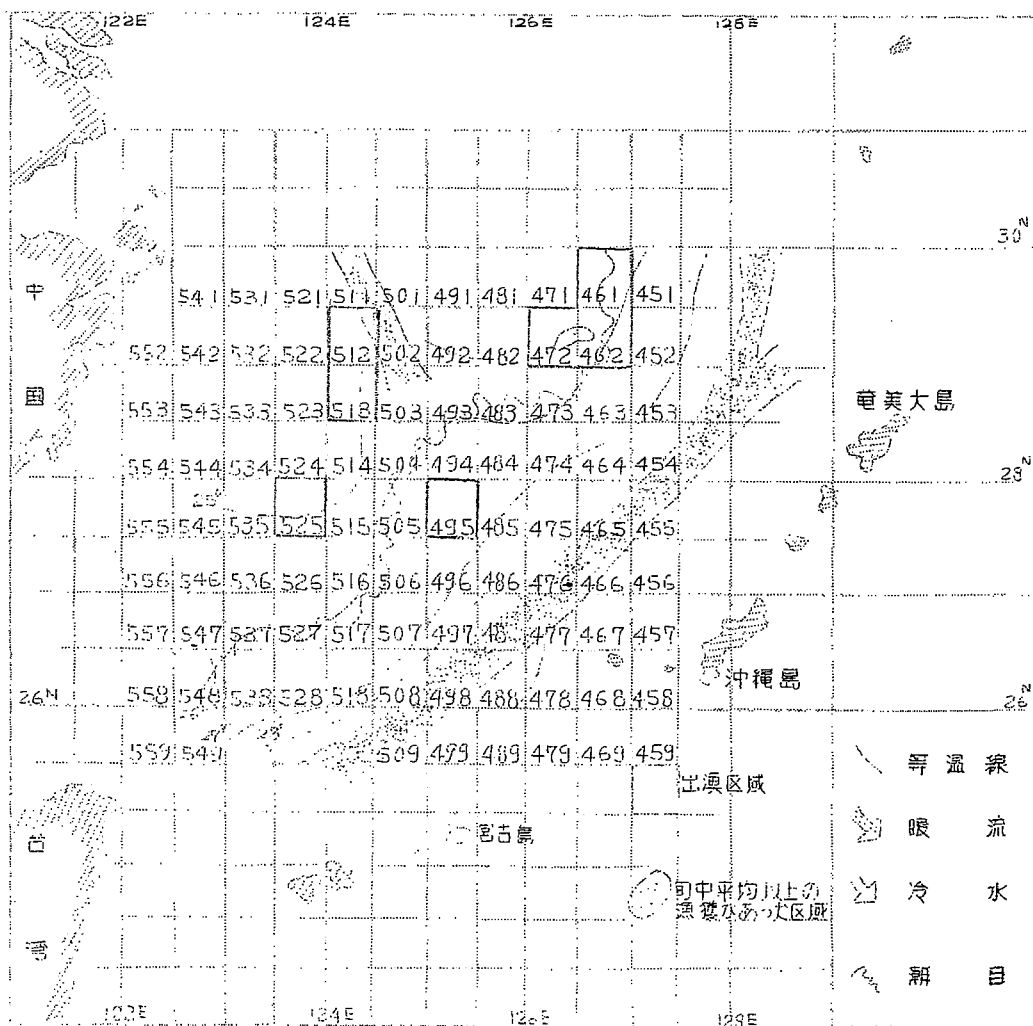
昭和35年10月中旬

海洋の概要

長崎海洋气象台

東支那海及び黄海では引き続き緩やかな季節変化をたどっており、水温も次第にさがって来た。

123°E以西の大陸沿岸及び黄海南部の海域では昨年より1°~3°程低目でその他の海域は1°前後暖かくなっている。今後も引き続き異潮の勢力は強く黄海冷水のはり出しが少ないので水温は全般にわたり緩やかにさがる見込み。



東海さば漁況及海況

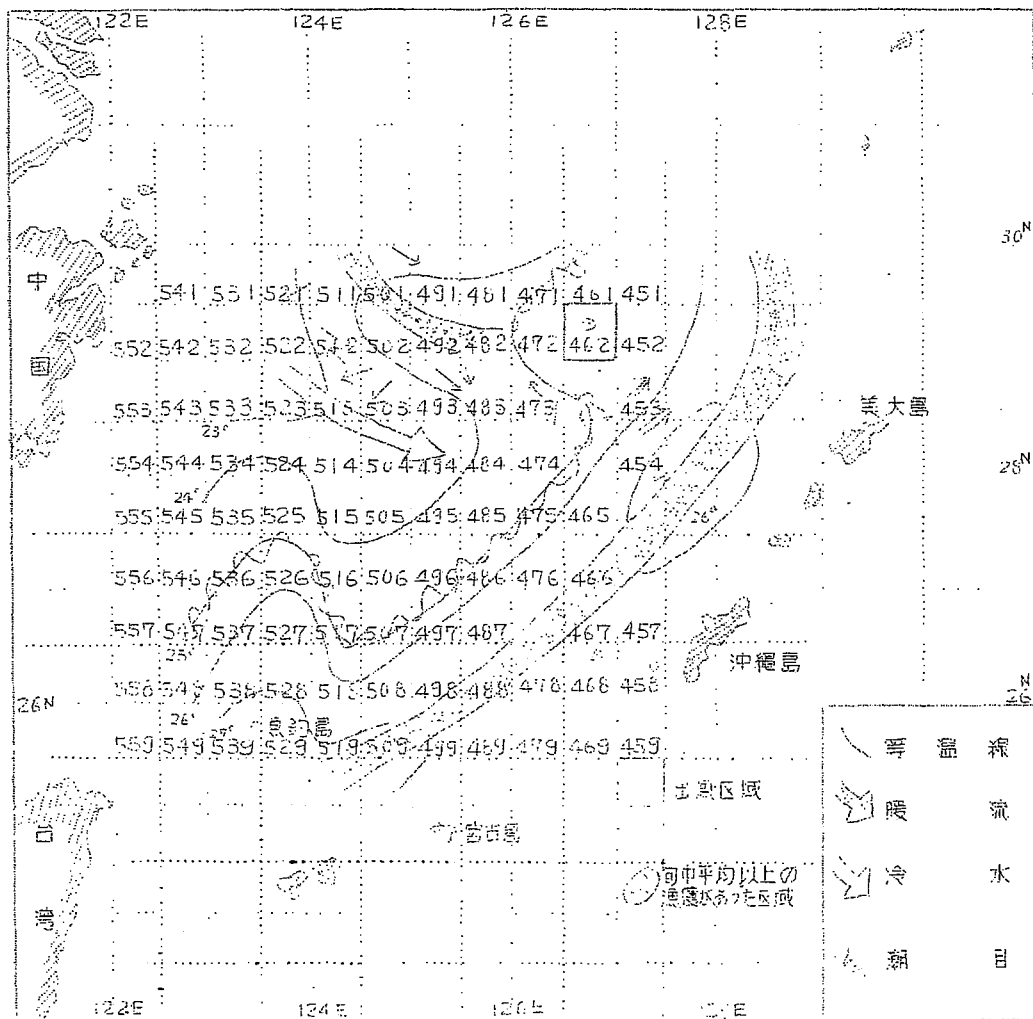
昭和35年10月下旬

海洋の概要

長崎海洋气象台

東シナ海及び黄海の水溫は先週にくらべて $1.5^{\circ}\sim 3^{\circ}$ 程低くなった。全般には平年より暖かいが、黄海及び大陸の沿岸では、近く低い。

又黄海北部の漁場一帯は急に冷え込み、 13° 前後になった。このため深さ50^m前後の浅い所は上層と下層水の混合が盛んになり、海底に向かって急に冷え込み、又大陸棚縁辺には冷水のはりだしが強くなったので潮目も替しくなつてきた。今後も続いて黄海及び東海の北部は冷え込むが、黒潮流域は穏やかな冷え込みが続く見込み。



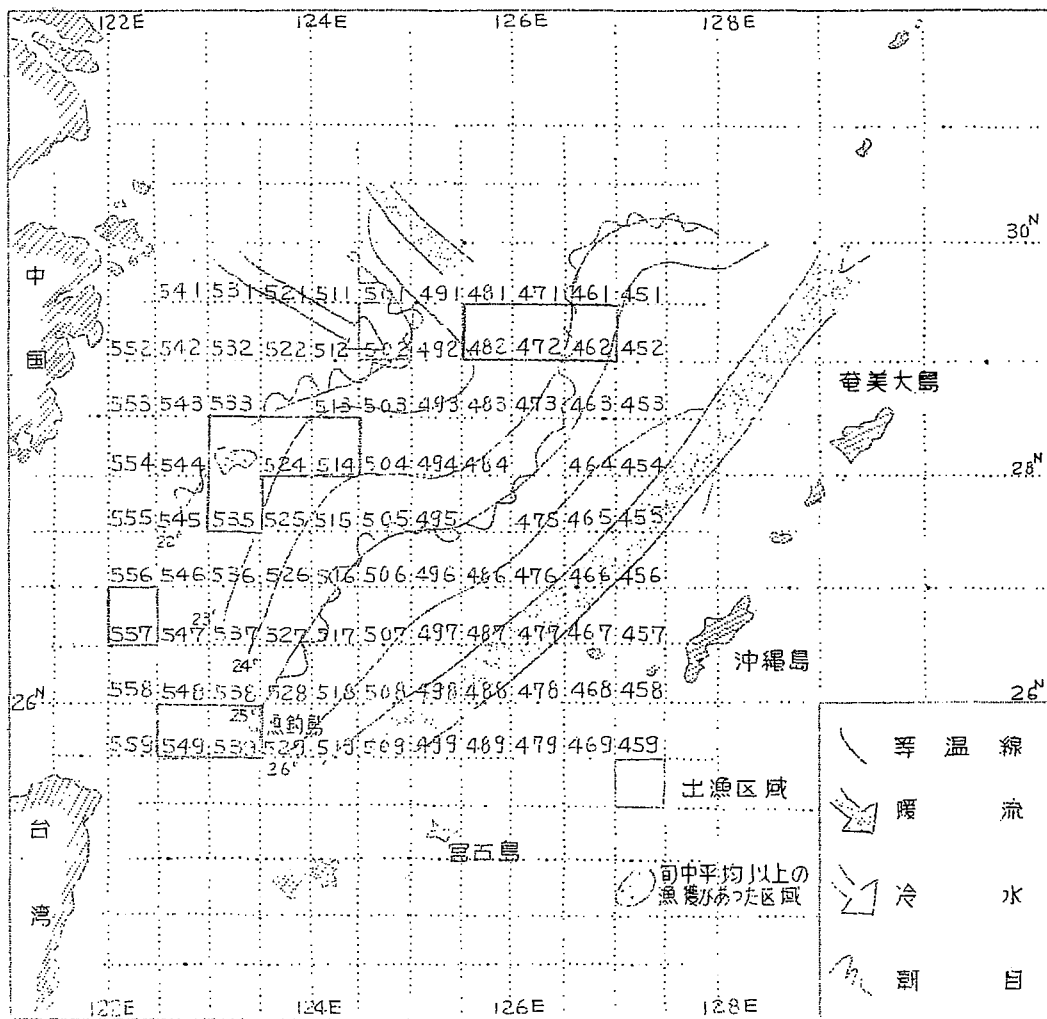
東海さば漁況及海況

昭和35年11月上旬

海洋の概要

長崎海洋気象台

東シナ海及び黄海の水温は順調な季節変化をたどり先旬より1°~2°程低くなった。しかし平年とくらべまだいくらか高目の所が多い。又黄海及び東海北部の漁場は18°前後で昨年より1°程低目になった。次に東海中部の大陸棚一帯は黒潮の勢力が強いので水温層共に高くなっている。まだ全体には大きい冷え込みもなくゆるやかな変化が続く見込み。



東海さば漁況及海況

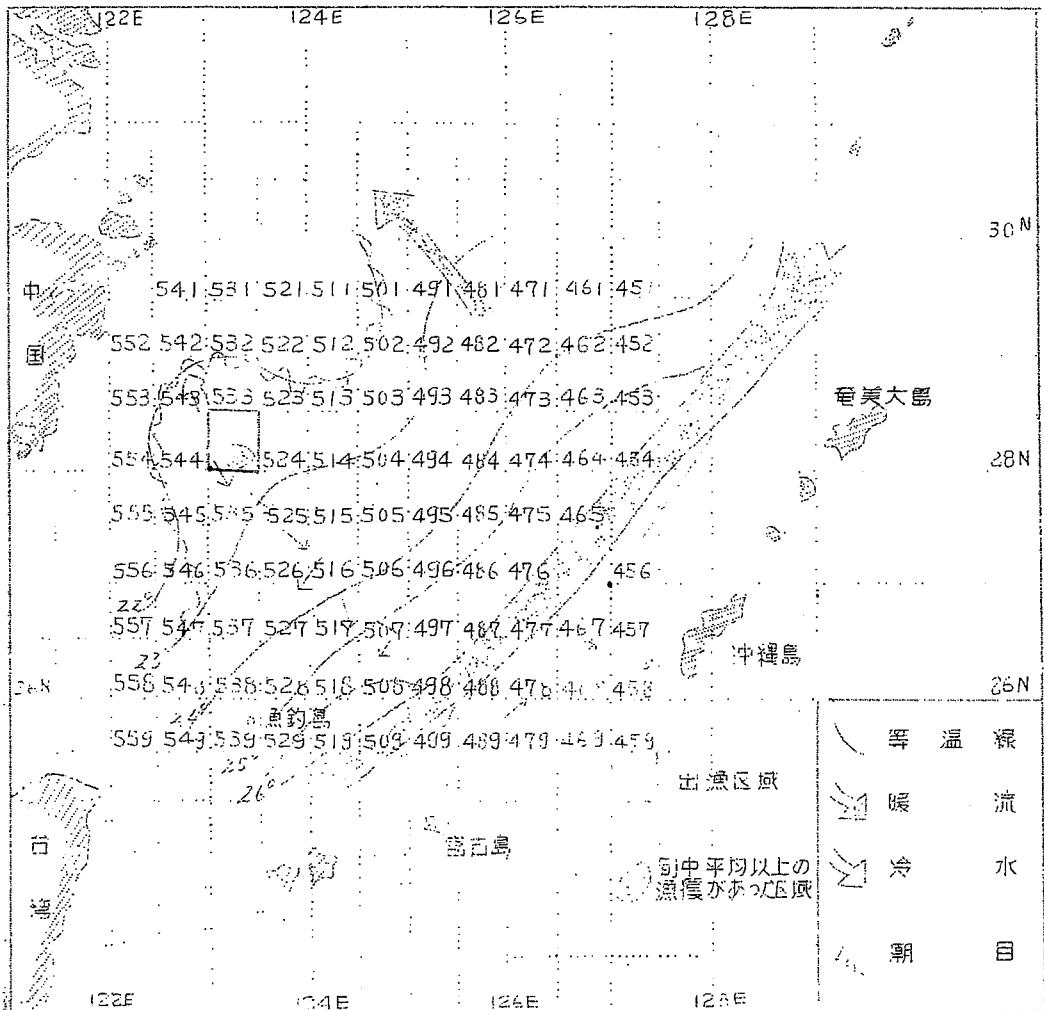
昭和35年11月中旬

海洋の概要

長崎海洋気象台

東シヤ海及び黄海の水溫は先旬から1.5°程下つたが東海の中部より黄海全域にまたがる海域ではまだ平年より1.5°程暖かい、一方大陸棚の囲りへ向つてはり出す冷水塊の勢いは例年より弱いので潮目の発達も少なく、反対に黒潮が大陸棚の内側まで菟まつているので塩分と水溫は共に高くなつている。

又黄海では22日頃急に季節風の吹き出しがあつたが水溫は16°以上にとまつている。今後もこの程度の吹き出しはあるが、海況には大きな変化はなくまだしばらく曇か目が続く見込み。



東海とば漁況及海況

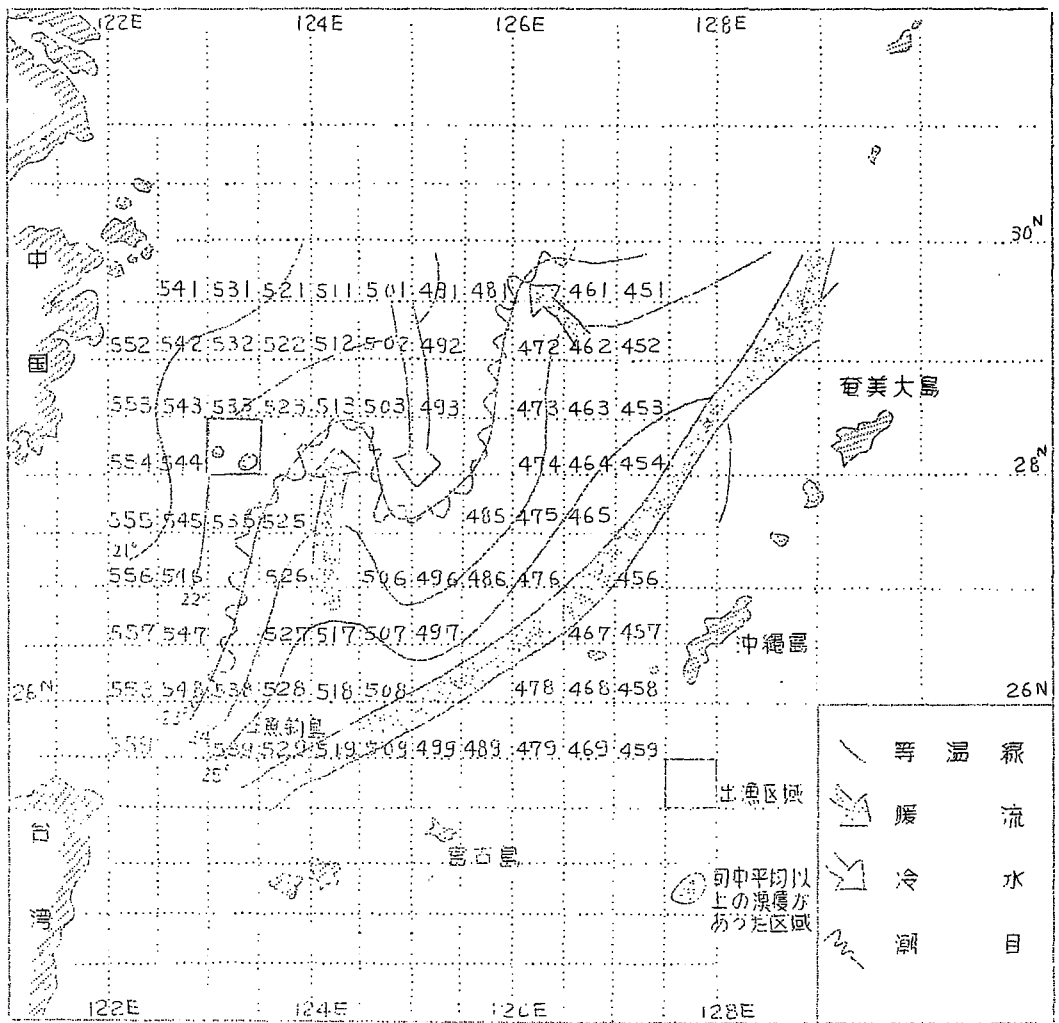
昭和35年11月下旬

海洋の概要

長崎海洋気象台

黄海及び東シナ海では一時季節風が募つてかなりの冷え込みを見だが水温はまだ全体に平年より高目が続いている。

即ち黄海では2°~3°東海中郡は2°黒潮と対馬流域は1°それぞれ暖かい、又東海中部の大陸棚一帯には黒潮系の高かん水が侵入し、このため冷水のはり出しは少なく、又大陸棚周辺一帯の潮目は例年より弱い。今後も引続いて季節風は募る見込みなので黄海及び東海中部海域の冷え込みは強くやがて平年水温に近づく見込み。



東海さば漁況及海況

昭和35年12月上旬

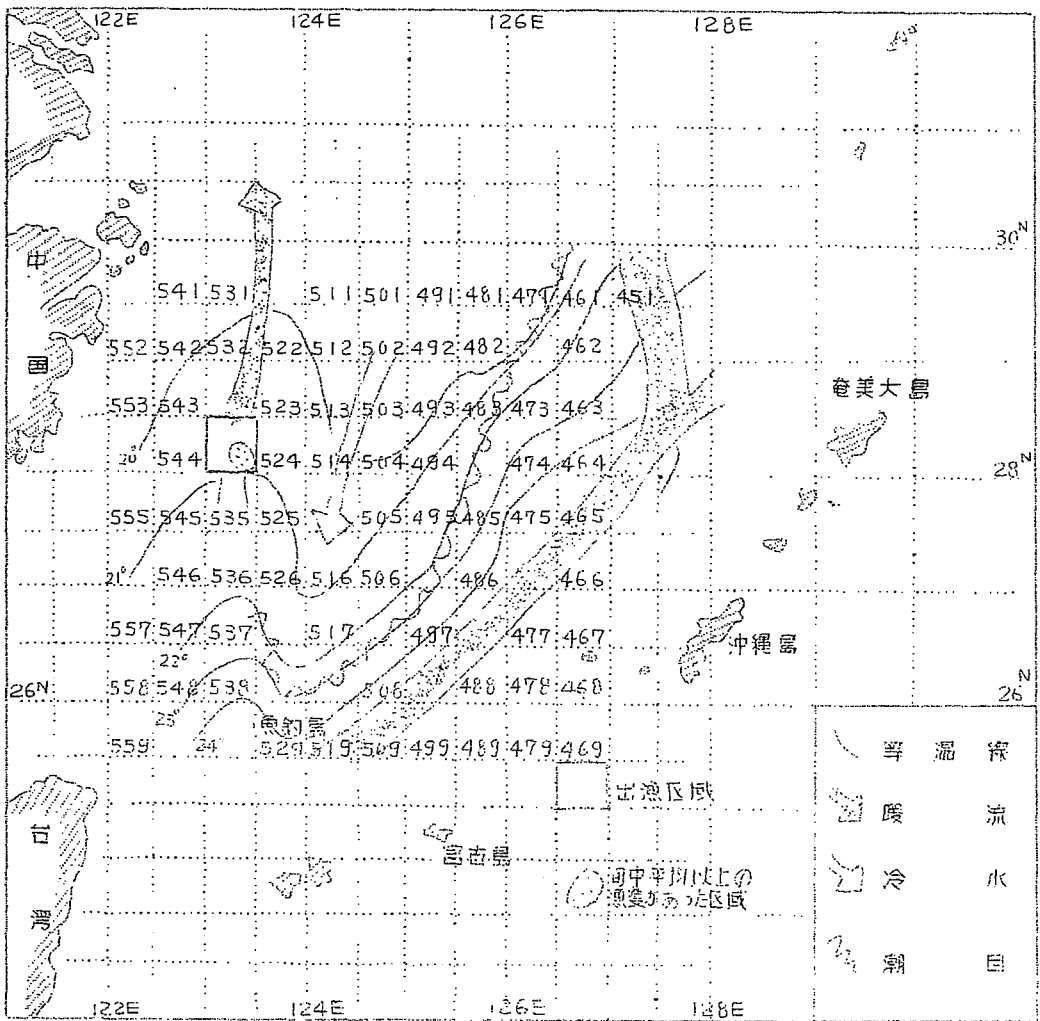
海洋の概況

長崎海洋気象台

東支那海及び黄海では一時季節風が吹きつり全海域にわたつてかなりの冷え込みを見た。このため山東半島の沖では10°となりこれは平年並に近い。

又中国大陸、南西諸島及び九州一帯の沿岸は2°程さがり平年より低くなつた。しかし東海中部のソコトラの周辺は平年より高目が続いている。

水系の配置は冬型に近くなつたが、今後しばらくは目立つた季節風の吹き出しもなく又大陸側一帯に黒潮系の水が侵入しているのので全体に暖かい状態が続く見込み。



東海さば漁況及海況

昭和35年12月中旬

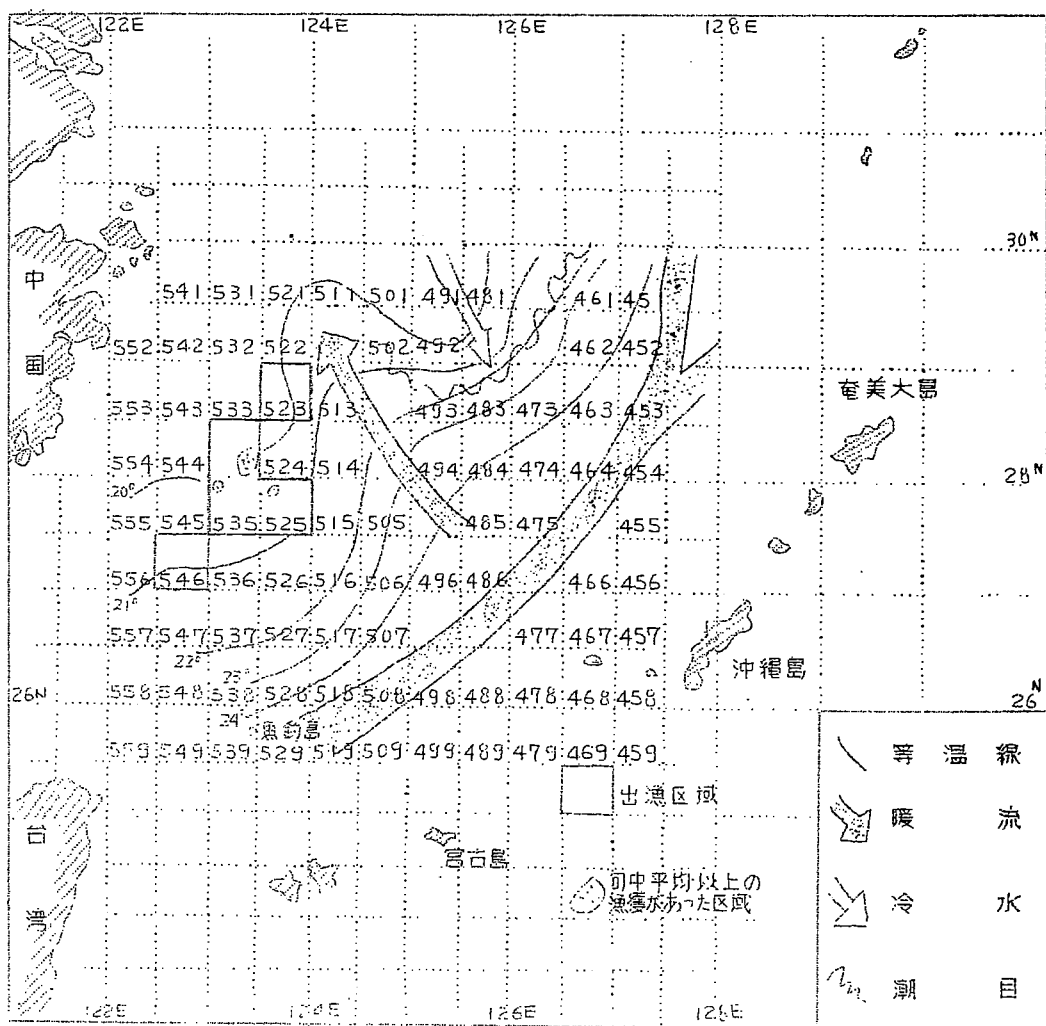
海洋の概況

長崎海洋気象台

東シナ海及び黄海方面では季節風も納まつて平穏になつた。水温は黄海の全域と九州沿岸及び対馬流域一帯は平年より2°~3°程低い。

然し東海中部の大陸棚付近は1°余り高く、又黒潮流域もやゝ高目になつている。

今後しばらくの間季節風の吹出しも少なく沿岸水域が冷えこむ程度で全体には暖かい状態が続く見込み。



東海さば漁況及海況

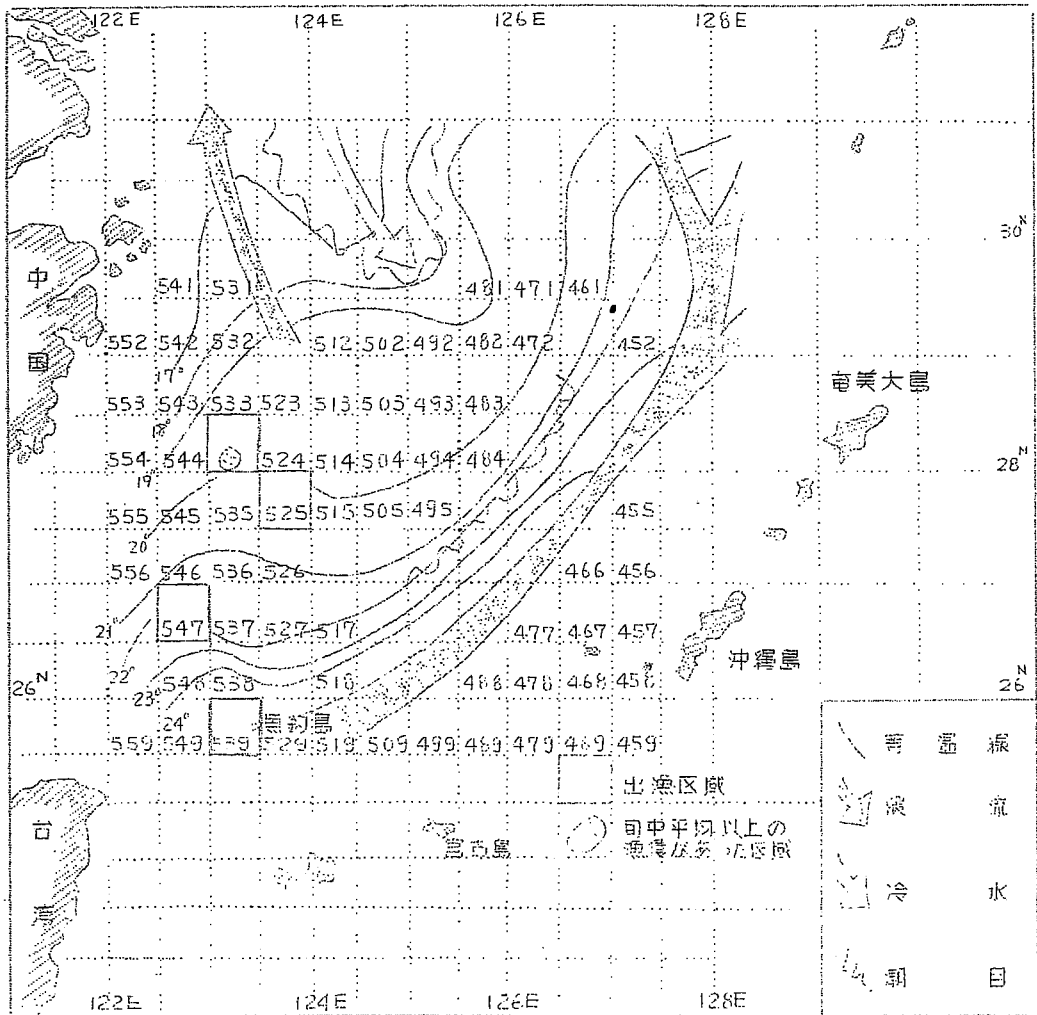
昭和35年12月下旬

海洋の概要

長崎海洋気象台

東シナ海及び黄海の水溫は平年よりまだ暖かい所が多い、中でも黄海と東シナ海の中
部は2°高く、又琉球、薩南の黒潮付近は平年の状況に近い、併し九州やその他の沿岸水
温は平年より低目が続いている。

今後ともまだ黄海と東シナ海の中部はやゝ高目が続き、又九州近海は低目、その他は平
年並が続く見込み。



東海さば漁況及海況

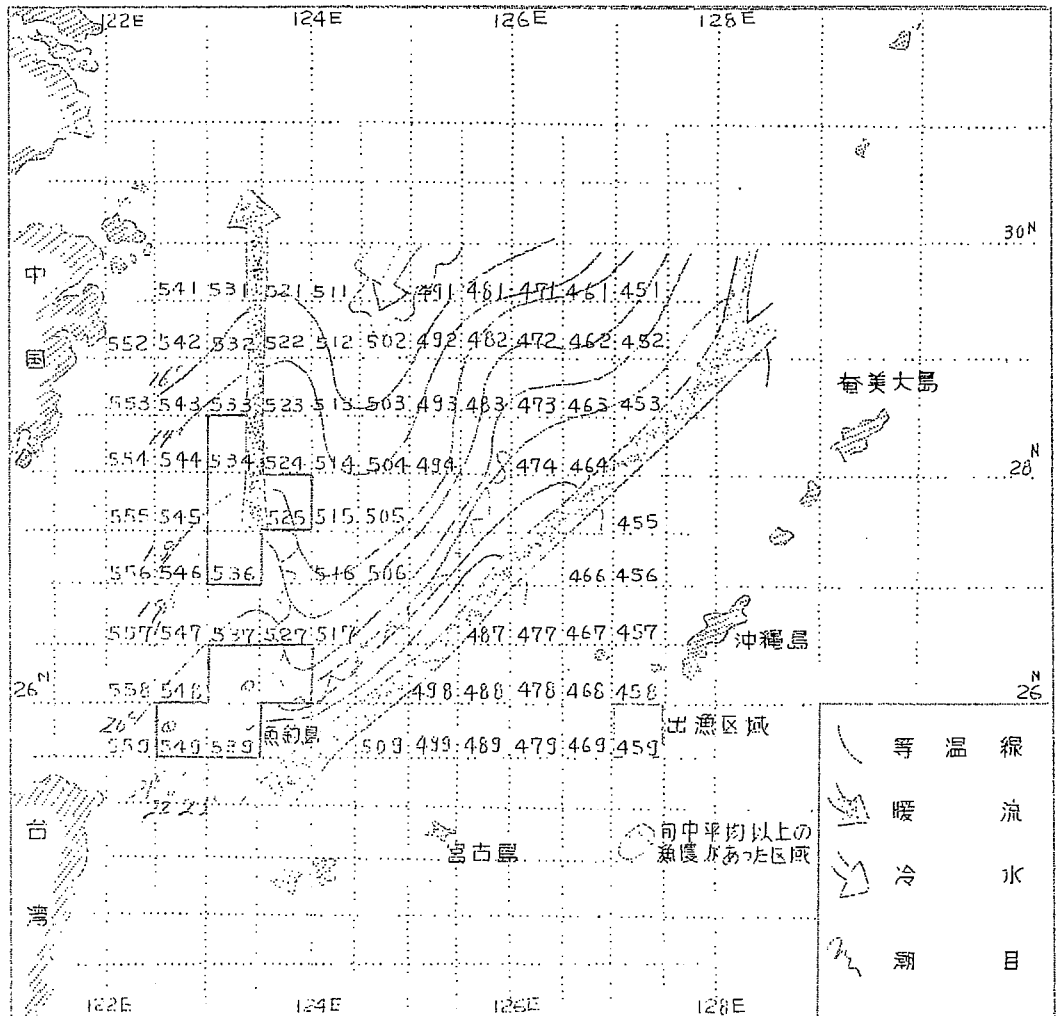
昭和36年1月上旬

海洋の概況

長崎海洋気象台

東シナ海及び黄海の水温は先月から2°程さがり、平年よりやや低目の所が多くなった。中でも黄海方面の冷え込みは急で次第に東海中部のソコトラ海域にまで及んでいる。又九州近海及びその沿岸水温等は順調な冷え込みを見せている。

今後も引き続き季節風が強い見込みなので黄海及び東海中部海域の水温は急にさがる見込み。



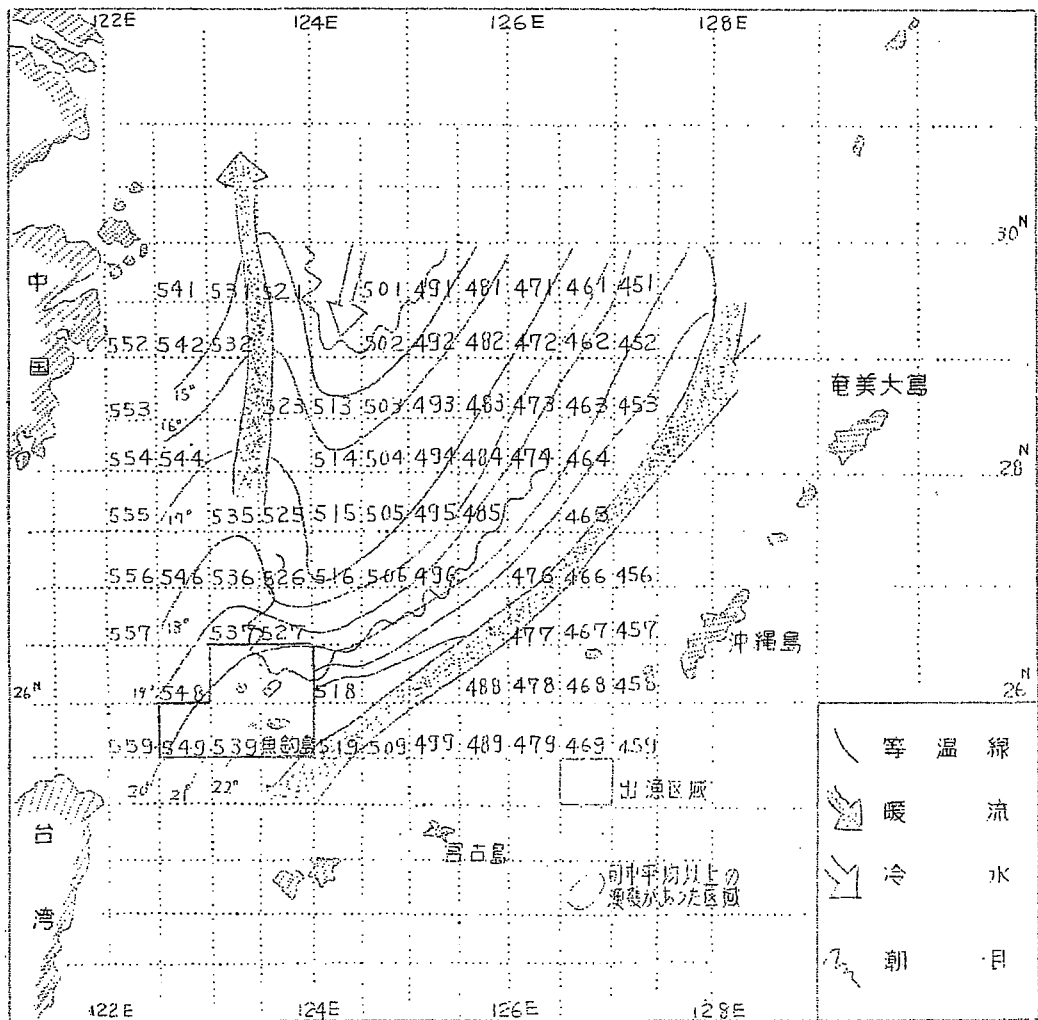
東海さば漁況及海況

昭和36年1月中旬

海洋の概要

長崎海洋気象台

黄海及び東シナ海の水温は先月から $1\sim 2^{\circ}$ 程さがり平年と比べて低いところが多かった。中でも琉球付近や九州西部、対馬近海等の海域は平年より $1\sim 3^{\circ}$ 程低い。然し、黄海の中部あたりはやゝ高目になっている。又大陸沿岸水の冷え込みは急で、東海中部付近はようやく平年並の水系配置になった。今後はまだ冷え込みは続き、水温は全体に下り、九州の沿岸や東海南部海域はかなり下る見込み。



東海さば漁況及海況

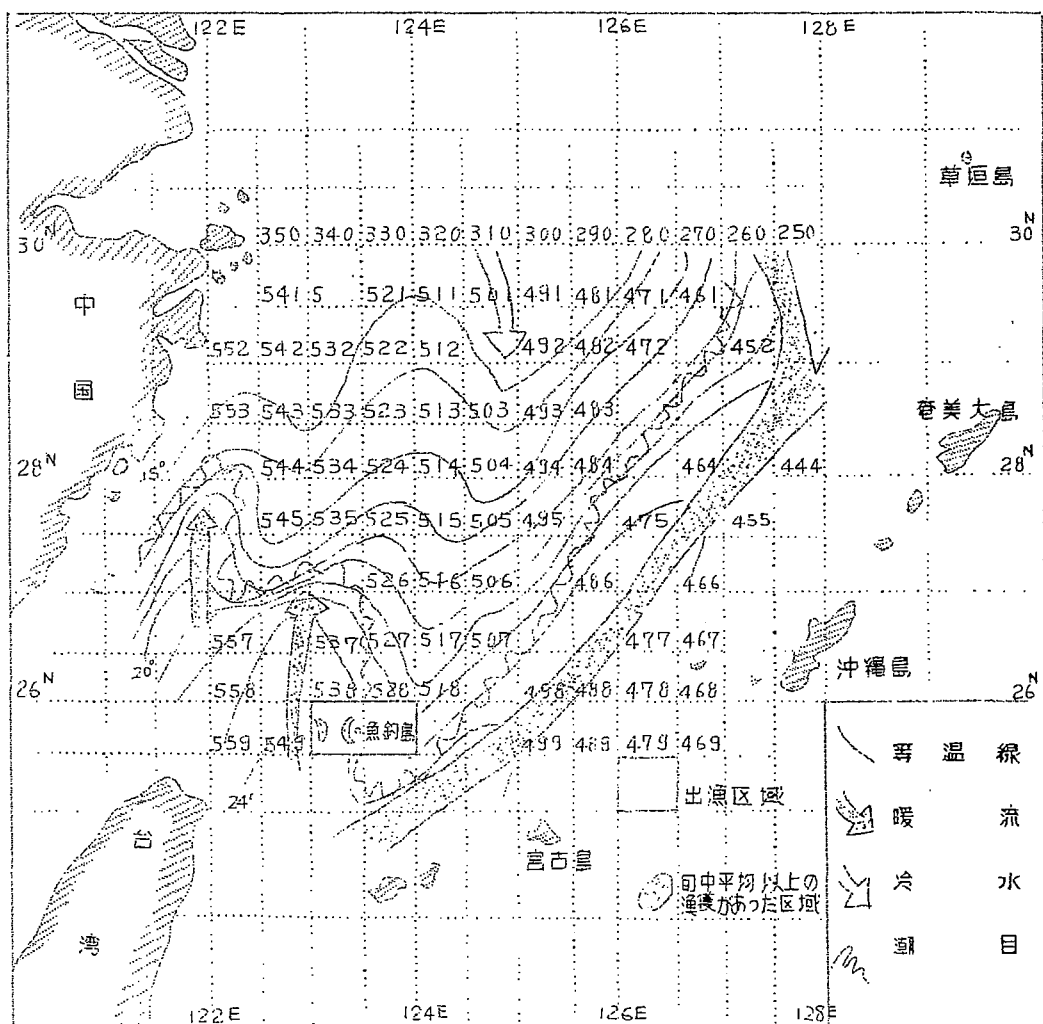
昭和36年1月下旬

海洋の概要

長崎海洋気象台

東シナ海及び黄海の水溫は冬期の最低値に近づき、変化もさかんになつてきた。

すでに台湾や琉球付近の南方海風水溫は上昇のきざしが見えてきた。又南西諸島、九州近海の黒潮流域はほぼ平年並、大陸沿岸及び東海中部一帯の黄海冷水域はやゝ高目の傾向にある。今後も引き続き黄海及び東海北部の冷水塊及び五島、対馬近海等は緩やかに下り、東海南部海域は変化も少なく、又九州の沿岸水溫は幾分下つてまだ平年より低目が続く見込み。



東海さば漁況及海況

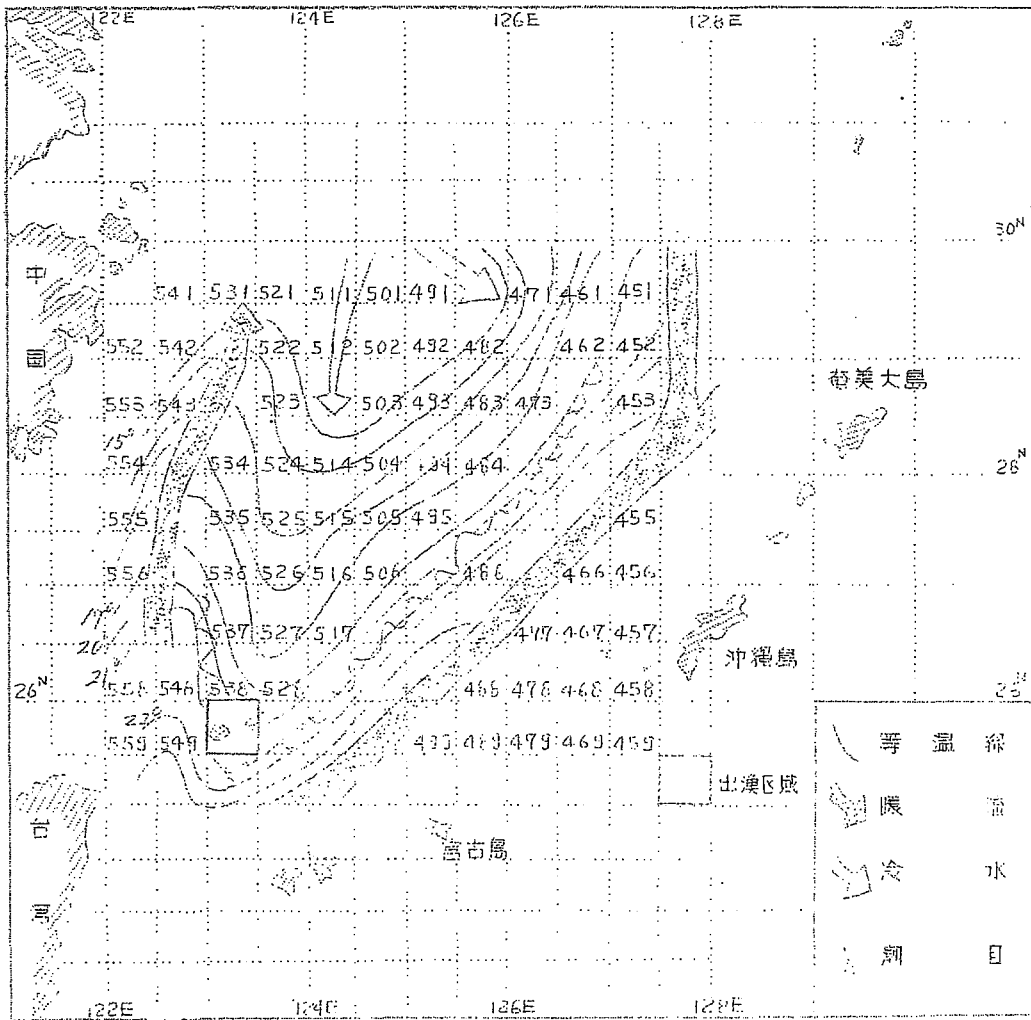
昭和36年2月上旬

海洋の概要

長崎海洋気象台

東シナ海及び黄海の水溫は沿岸沖合共に先月より1度近く冷え込みをみたが、台湾、琉球等の南方海域では変化が次第にゆるやかになっている。又これは平年にくらべて南西諸島付近や九州近海等の黒潮流域及び沿岸水威等は低目で、山東半島沖合から大陸沿岸ぞいにある黄海冷水域は高目となっている。

今月は目立った気象変化は少なく九州近海、台湾琉球方面の海域は引き続き平年より低目となり、又黄海冷水の勢力が弱いので東海中南部黄海方面は高目の水溫になる見込み。



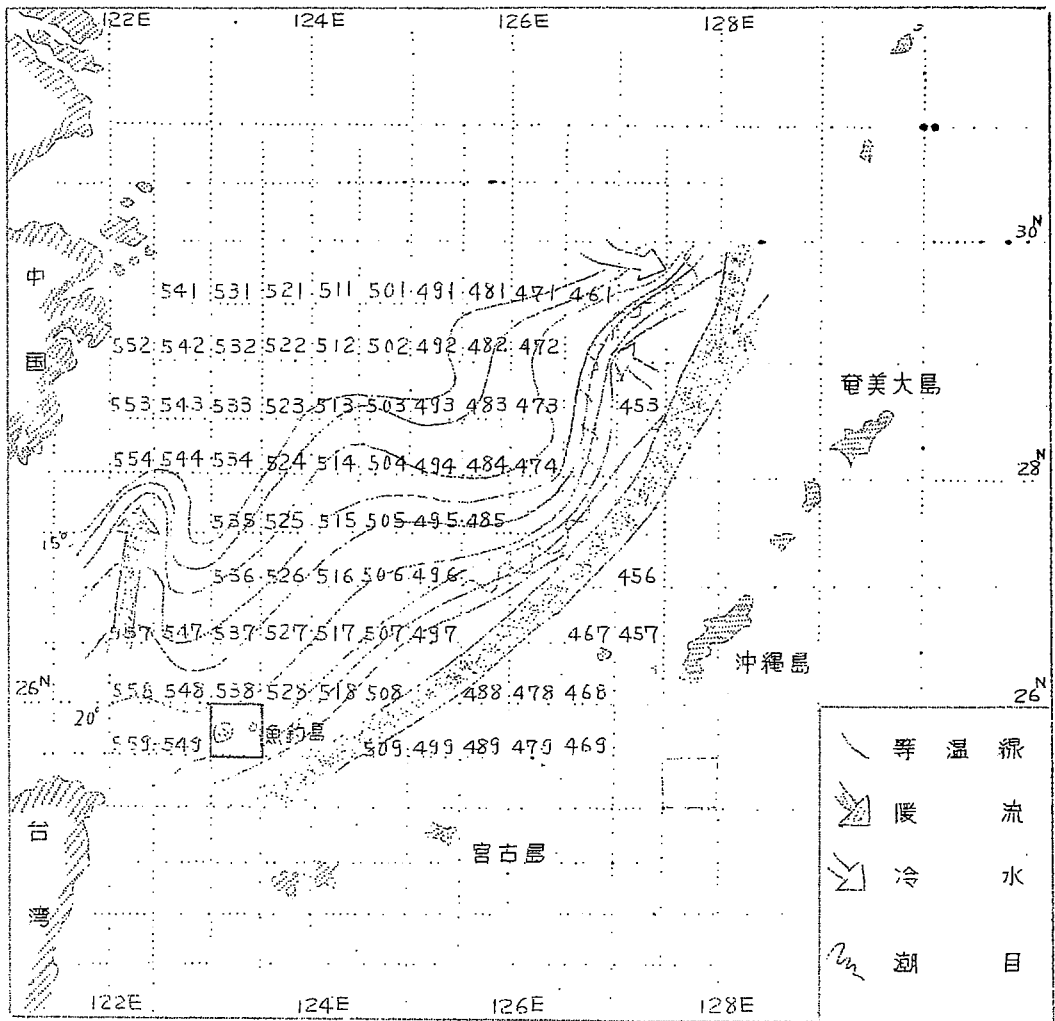
東海之ば漁況及海況

昭和36年2月中旬

海洋の概要

長崎海洋気象台

東シナ海及び黄海の水温は全般にわたって平年より低目が続いている。黒潮の勢力は弱く、又季節風の発達により冷水域が広がったので、クチミノセ、漁釣島及び五島、対馬近海等の漁場水温は低い。又南西諸島、九州各地の沿岸水温も低目が続いている。今後も水温は当分の間平年よりも低目が続き、又季節変化も東海南部ではいくらか暖かくなるが、中部と北部、黄海等はまだ冷え込む見込み。



東海さば漁況及海況

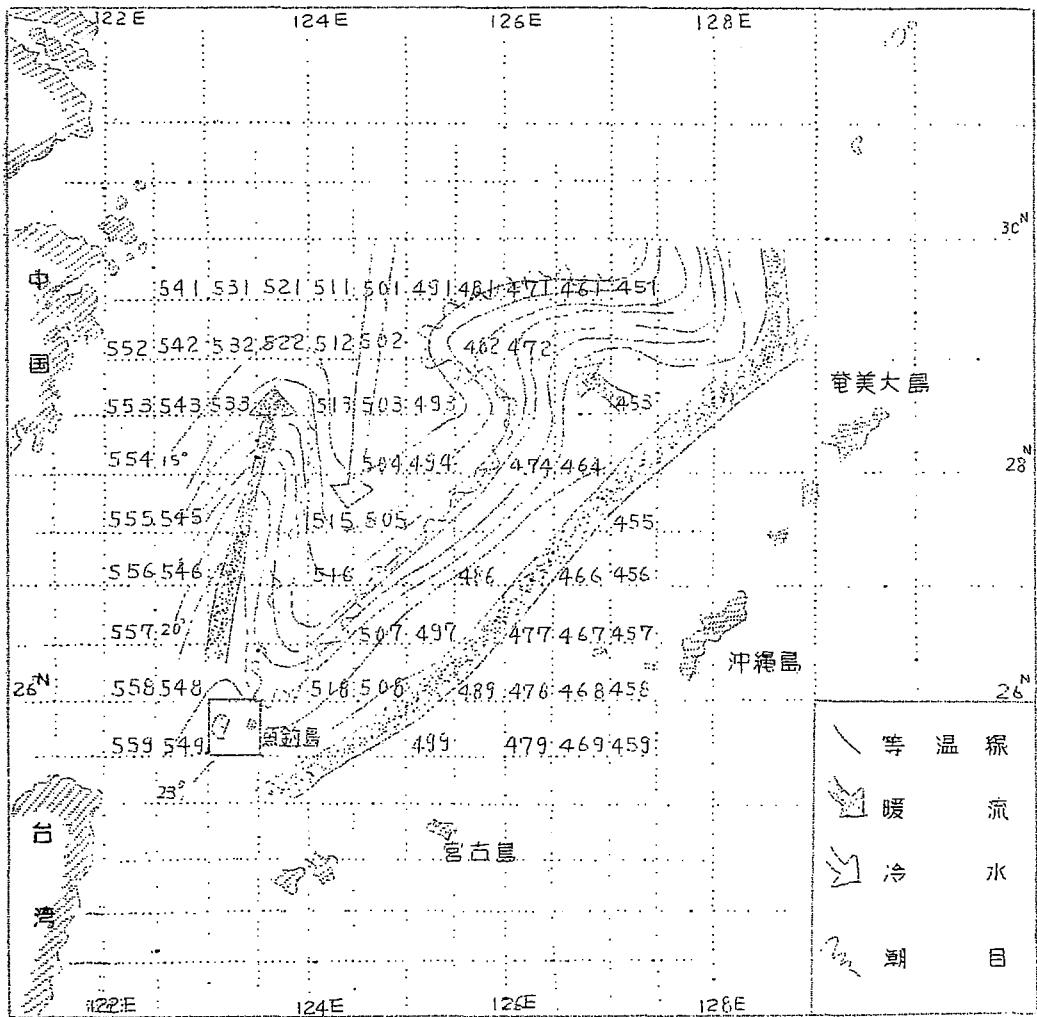
昭和36年2月下旬

海洋の概要

長崎海洋気象台

東シナ海及び黄海ではきびしい寒さが去り、水温の変化も大きくなってきた。このため先旬にくらべて黄海や東海北部では 1° 黒潮付近は 2° も暖かくなった。しかしまだ昨年よりは底目が残っている。中でも大陸棚周辺にあるカキノセ、クチミノセ、漁釣島等の漁場には黄海冷水が強くはり出し、この辺りは着しい潮目になっている。

今後も水温はいつせいに上昇するが、まだ昨年よりは底目が続く見込み。又黄海では月末頃には冷水が勢を増し、潮目も着しくなる見込み



東海さば漁況及海況

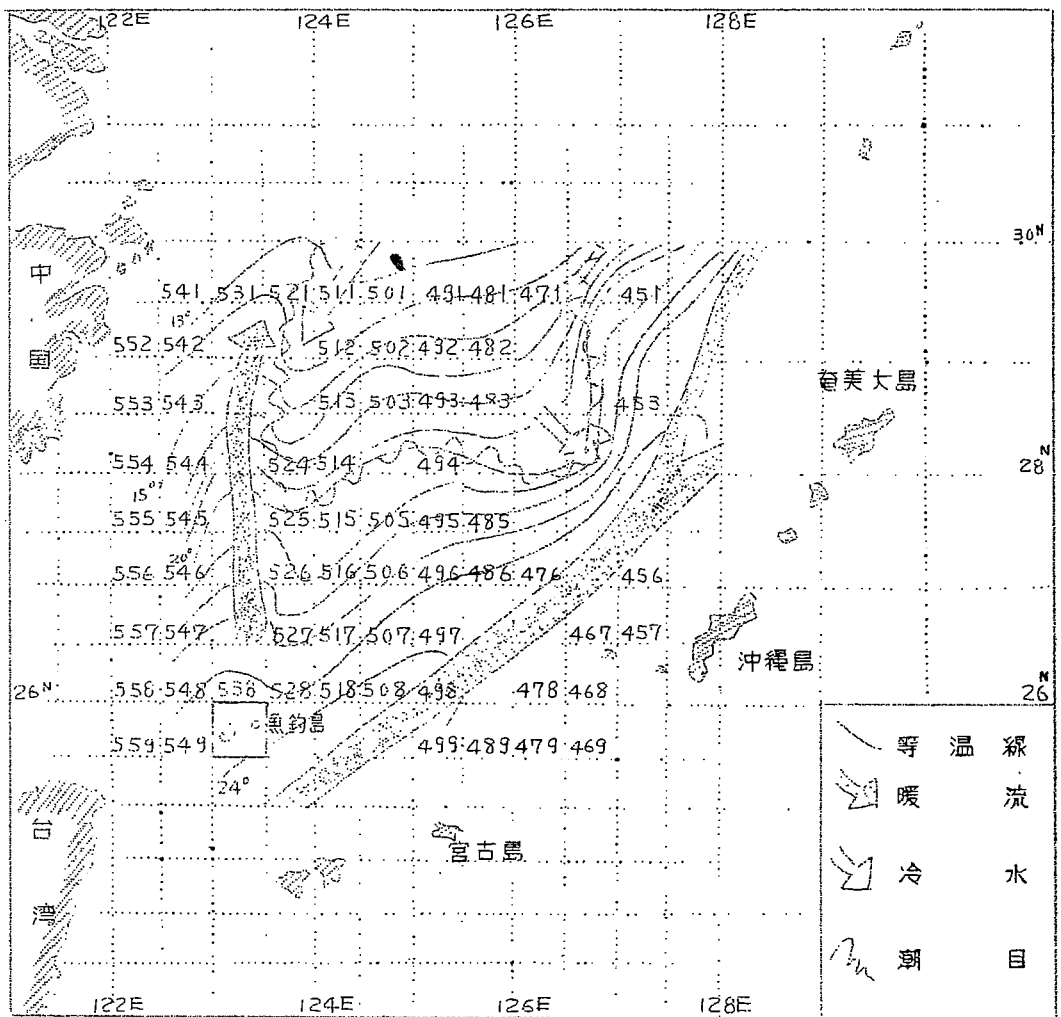
昭和36年3月上旬

海洋の概況

長崎海洋気象台

東シナ海及び黄海では陸地に近い沿岸を始の、沖合の水温は次第に高くなってきた、今旬の水温は昨年にくらべて全般にやゝ低目であるが、大陸の沿岸と黄海の一部では幾らか高目になっている。又大陸からの吹き出しが弱つたので黄海冷水の動きはゆるやかになり、潮目の移動も少なくなった。

今後も水温は続いて上昇するが、中でも大陸側のまわりにあるソコトラ、カキノセ、クチミノセ等の漁場及び九州近海特に陸地に近い入り海等は目立って暖かくなるでしょう。



東海とば漁況及海況

昭和36年3月中旬

海洋の概況

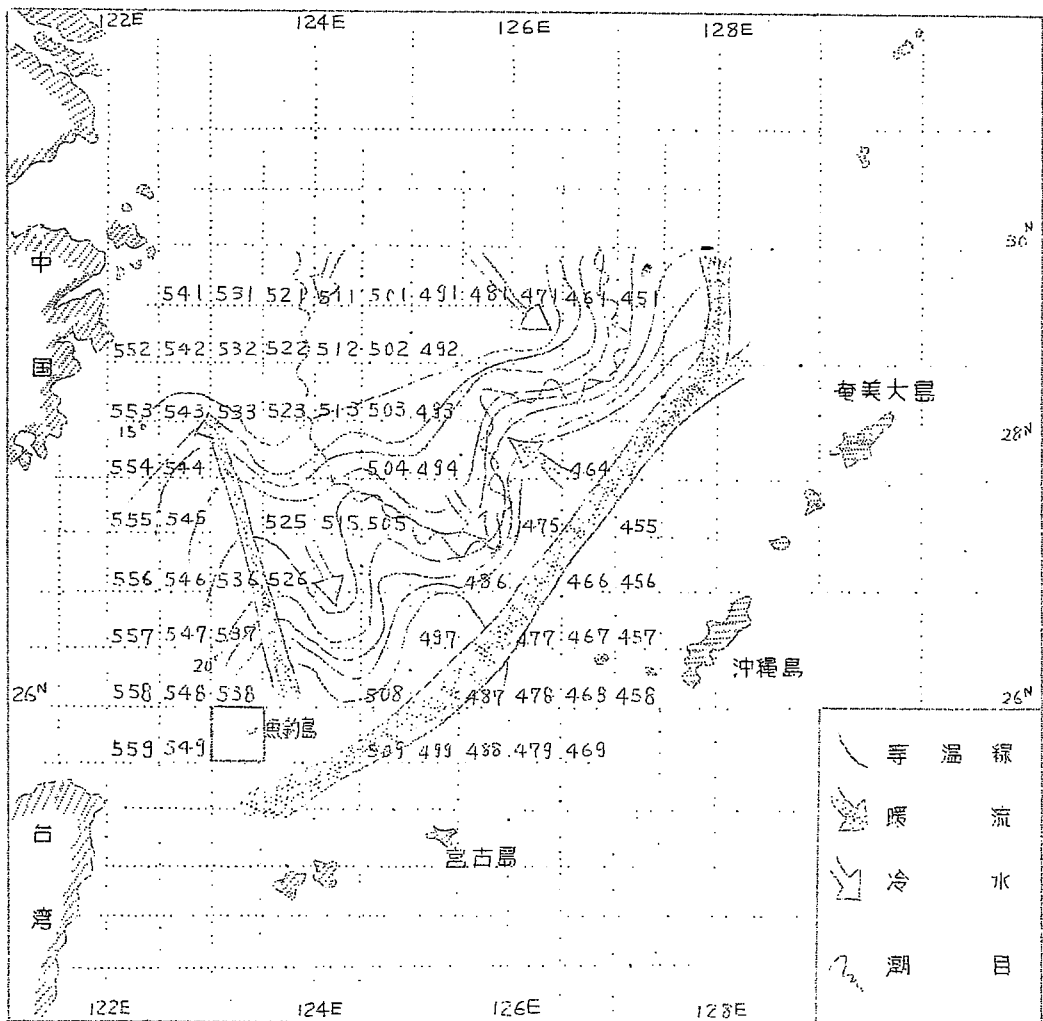
長崎海洋气象台

東シナ海及び黄海の水温は昨年よりまだかなり低目の状態が続いている。又東シナ海の中南部、黄海の南部、草垣島付近には狭い範囲にとどまるが3度も低い海域がある。

又、九州や南西諸島一帯の沿岸水温も2°~3°低い。

黄海冷水の中心の位置は昨年とほぼ同じ所にあるが、黄海の中部と南部の漁場では黄海暖流の勢が強いので、水温と潮目の位置の変動がはげしい。

今後も水温は全体に亘って低目が続く見込み。



東海さば漁況及海況

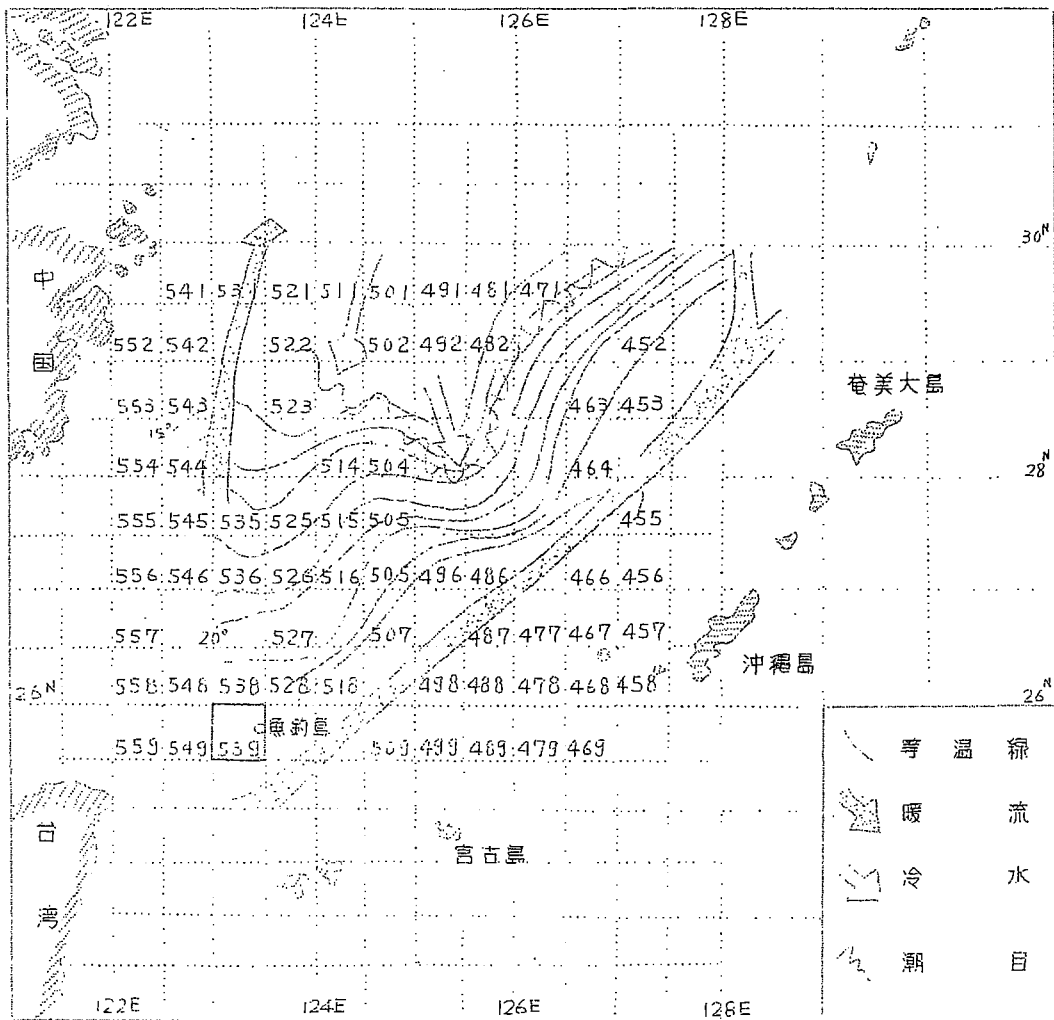
昭和36年3月下旬

海洋の概要

長崎海洋気象台

東シナ海と黄海には割合平穏な天気が続いているが、水温は殆んど全域に亘つて平年より低い。中でもカキノセ、ワテシノセ辺りの漁場近くには2以上低い所が多い。又水温の動きはまわめて鈍く、黒潮流域にはいくらかさがつた所もある。

まだ当分の間大きい変化はなく、東海北部、黄海等は黄海暖流の勢いが強いので次第に暖かくなり、黒潮流、対馬流等はまだ低目が続く見込み。



東海さば漁況及海況

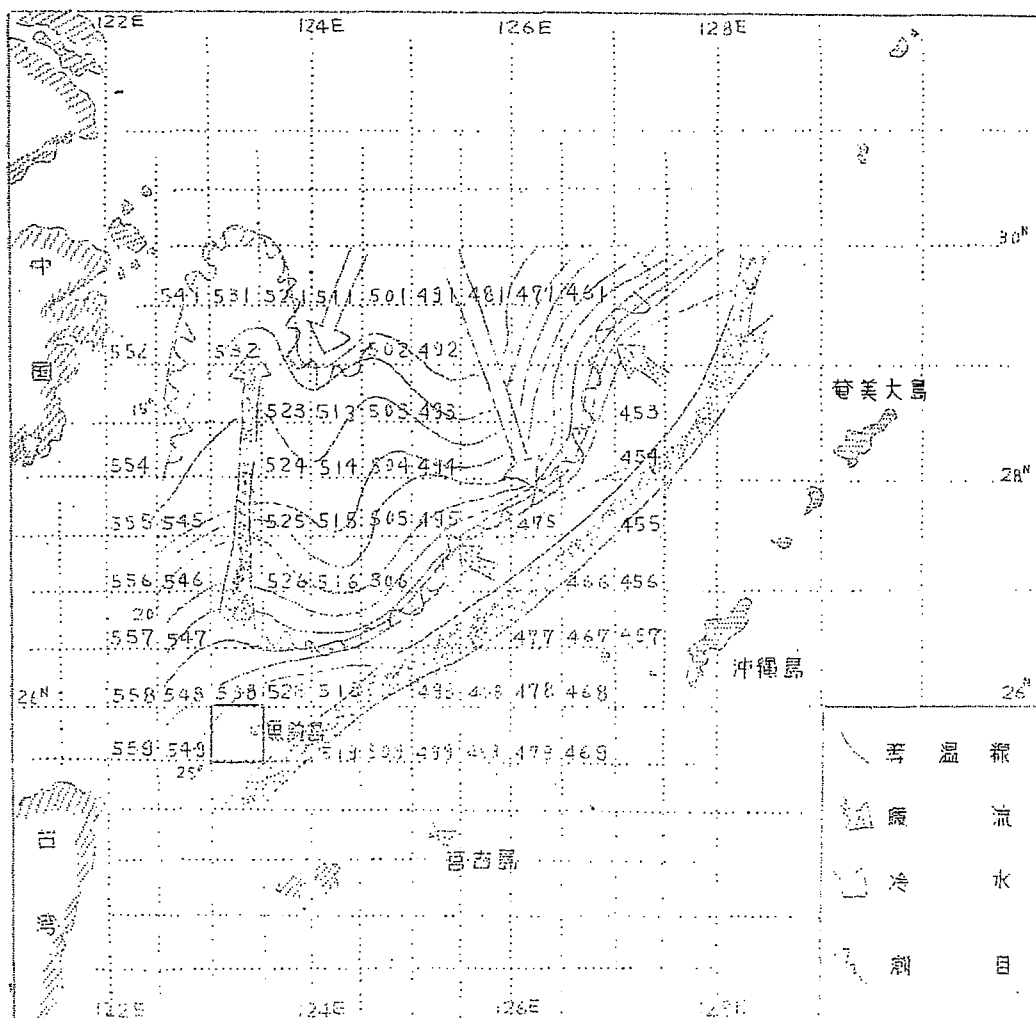
昭和36年4月上旬

海洋の概要

長崎海洋气象台

東シナ海、黄海方面は風もやわらぎ、今迄冷えていた海水が次第に暖かくなってきた。東海北部の漁場は漸く終りを告げたようである。水温は全般に昨年より低目が続いているが、これを海区別に見ると、琉球、薩南方面の黒潮流域は昨年より1°あまり暖かく、これに反してソコトラ、カキノセ、クチミノセ等の大陸棚付近も漁場や、五島、対馬近海の対馬流域では2°近く冷たくなっている。

今後も引き続き昨年にくらべて東海北部、対馬近海等は冷たく、黒潮流は更に暖かくなる見込み。又沿岸水域では水の動きや水温の変化がはげしくなる。



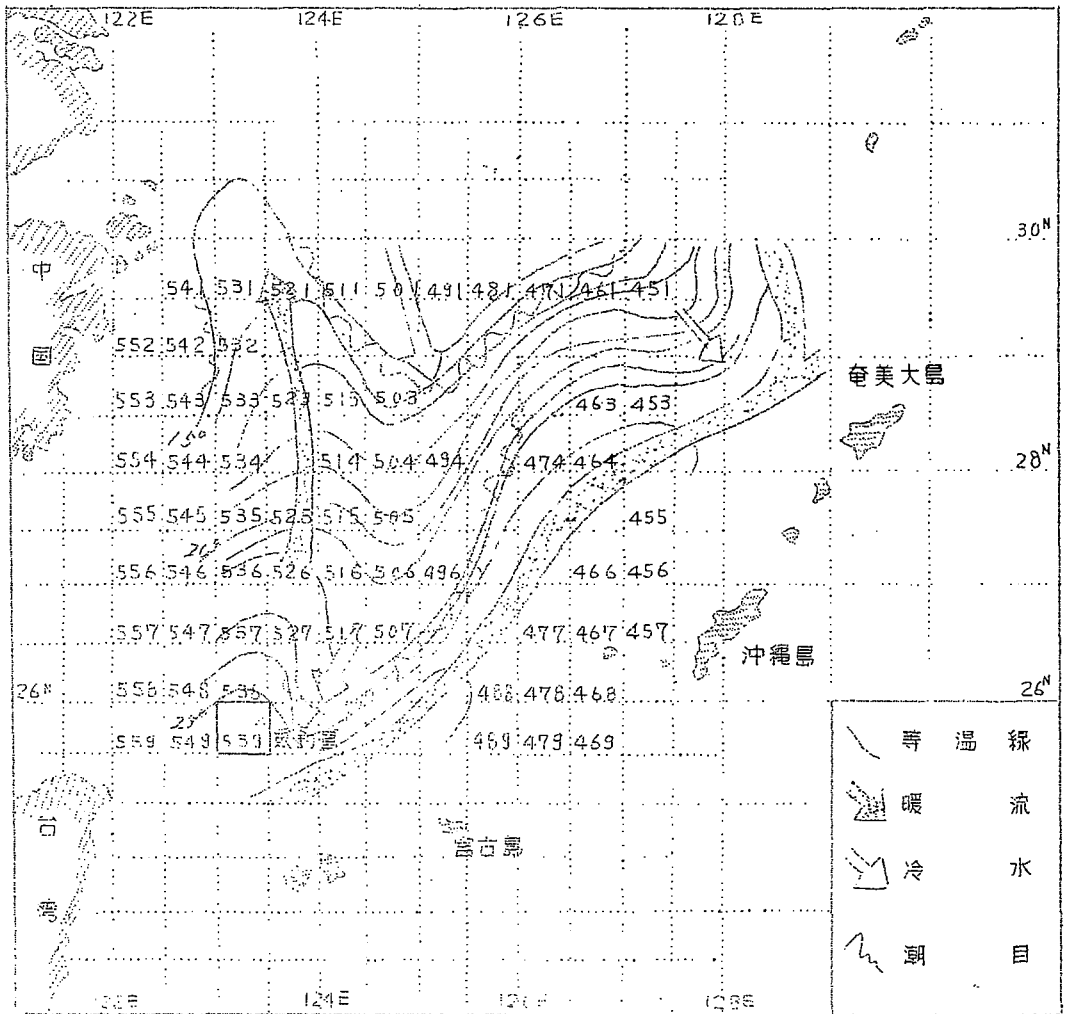
東海さば漁況及海況

昭和36年4月中旬

海洋の概況

長崎海洋気象台

東シナ海と黄海方面はおだやかな天気が続いているので水温も次第に高くなり先旬にくらべて1~2程あたたかくなった。全般に見ると南西諸島、薩南および五島、天草等の黒潮流域は昨年よりも暖かい。しかし東海中部の大陸棚一帯の黄海冷水域は先旬と同じように昨年より2~3冷たい。まだ当分の間大陸や九州等の沿岸水域は平年よりも一層暖かくなる傾向にあり、所によっては赤潮の発生する恐れがある。



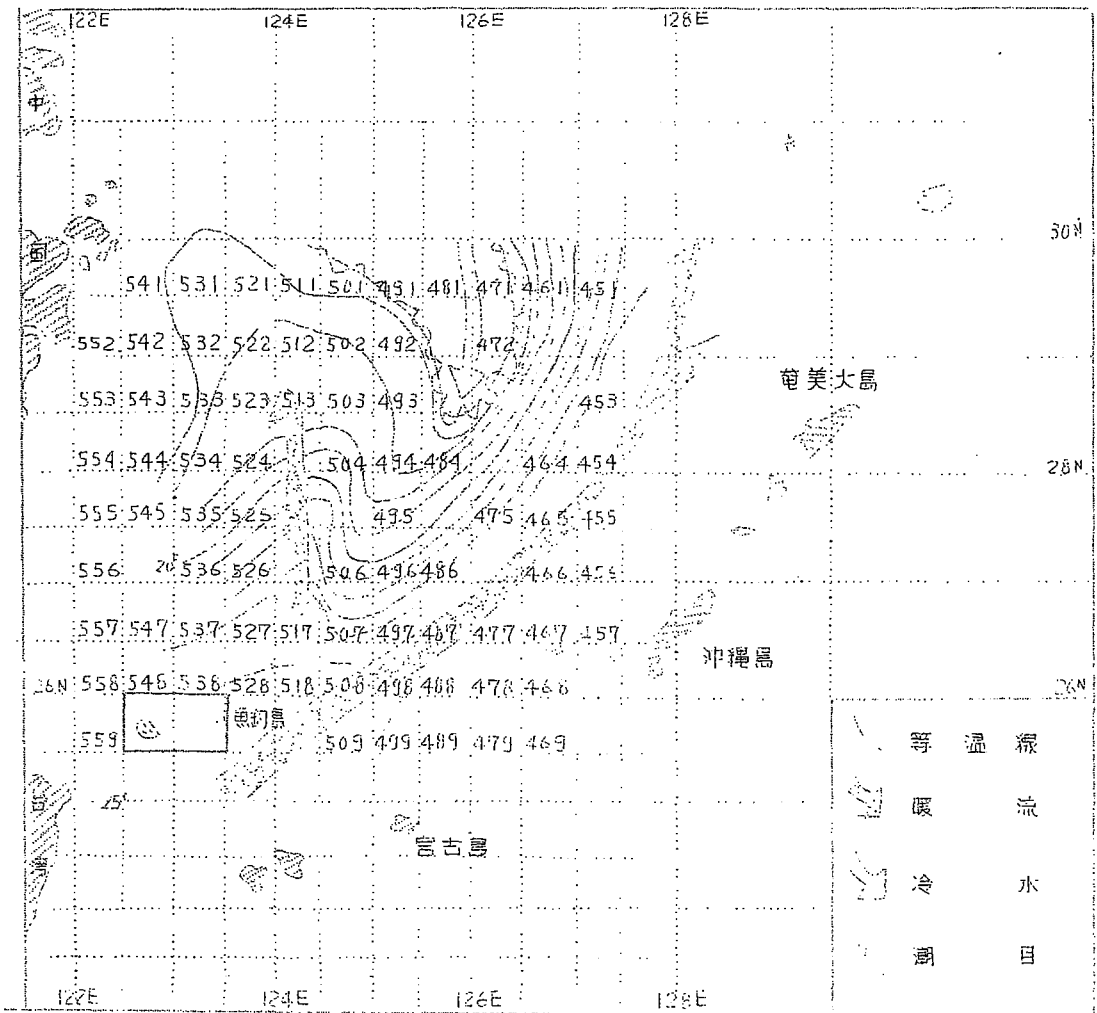
東シナ海及び黄海の水温は次第に高くなつてきた。黄海冷水の勢が弱くなり、反対に黒潮が強くなつてきたので、バーレーン付近や九州西方の黒潮流域は拡がり平年よりも暖かくなつてゐる。石垣島、沖縄付近の沿岸水温は昨年と略同じになつたが九州沿岸は之程低い。今後しばらく全海域に亘つて水温はかなり大巾に上昇し、沿岸や入り海等には赤汐の発生や、漁場では二重潮の起る恐れがある。

昭和36年4月下旬

海洋の概況

長崎海洋気象台

東シナ海及び黄海の水温は次第に高くなつてきた。黄海冷水の勢が弱くなり、反対に黒潮が強くなつてきたので、バーレーン付近や九州西方の黒潮流域は拡がり平年よりも暖かくなつてゐる。石垣島、沖縄付近の沿岸水温は昨年と略同じになつたが九州沿岸は之程低い。今後しばらく全海域に亘つて水温はかなり大巾に上昇し、沿岸や入り海等には赤汐の発生や、漁場では二重潮の起る恐れがある。



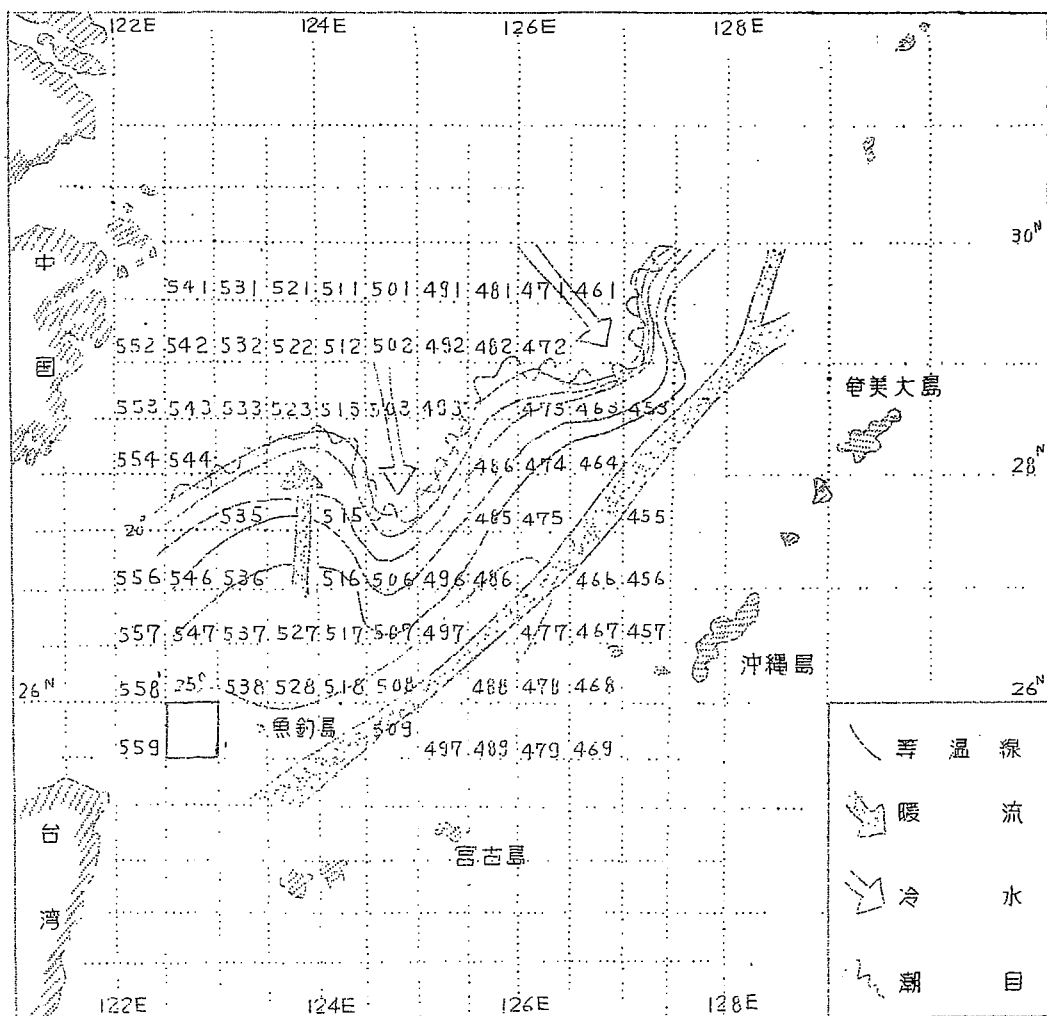
東海さば漁況及海況

昭和36年5月上旬

海洋の概要

長崎海洋気象台

東シナ海及び黄海では水温の上昇が少なく、台湾及び沖縄近海は昨年より $1^{\circ}\sim 2^{\circ}$ 程低く、沿岸水温も低目となっている。一方薩南、五島、対馬近海等は昨年より 1° 程高いが付近の沿岸水温はまだ低目が続いている。大陸棚一帯の黄海冷水も昨年より 2° 程低くその中心はソコトラを通過して南東にはり出し、このためカキノセ、クチミノセ等の漁場付近には瀬目が発達している。まだしばらくは漁場沿岸、入海等は水温の変化や海況の変動がはげしく、又二重潮の発生する恐れもある。



東海さば漁況及海況

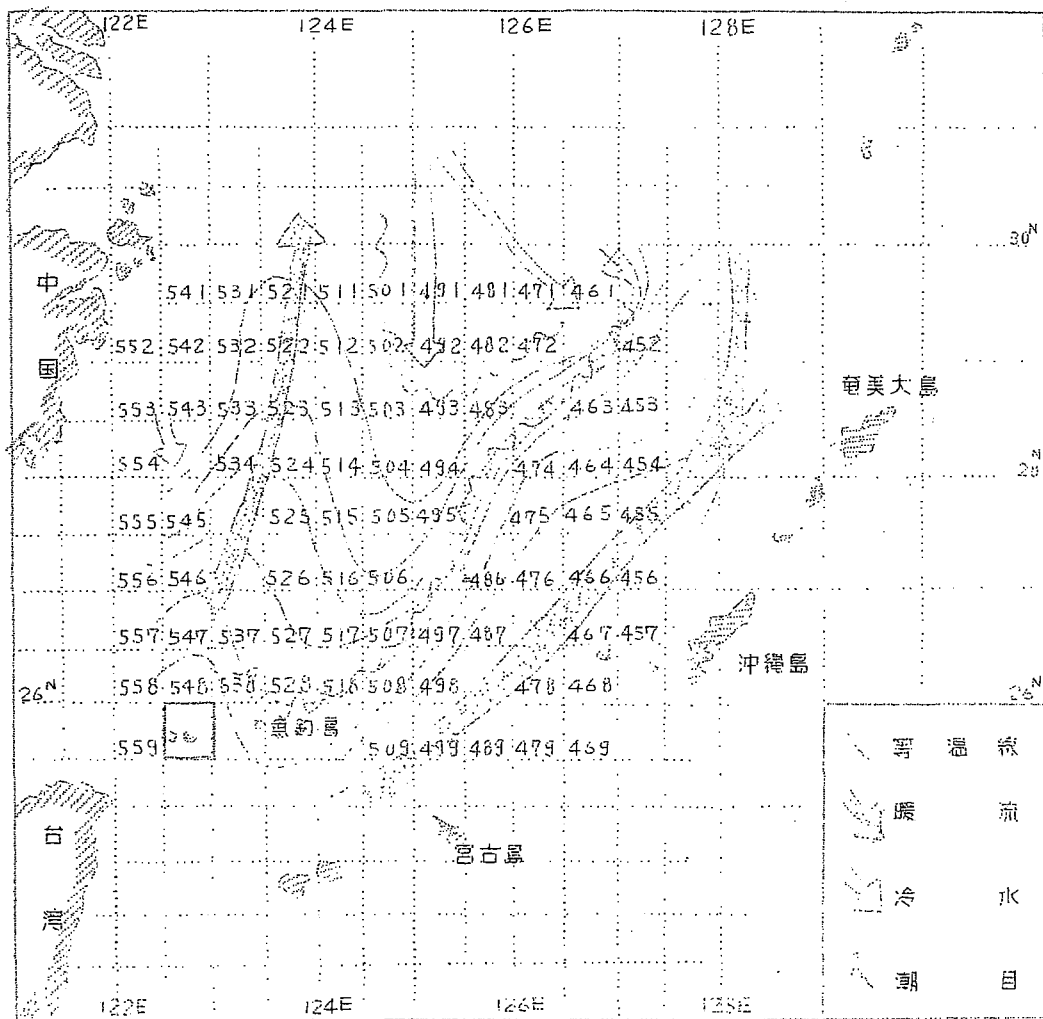
昭和36年5月中旬

海洋の概況

長崎海洋気象台

東シナ海及び黄海の水温は先旬から更に2度近く上昇した。今旬の水温は昨年にくらべて南西諸島とベーレンの周辺では1度余り高くなっているがその他の海域は全般に低目になつている。又南西諸島、九州各地の沿岸水温も順調に上昇し昨年と同じになつた。

今後も雨期が近づくので水温の上昇は少なくなり、黄海冷水は次第に勢力を増して行くので、ソコトラ、対馬近海等東海北部の漁場や大陸棚周辺では潮目の移動がはげしくなる見込み。



東海とば漁況及海況

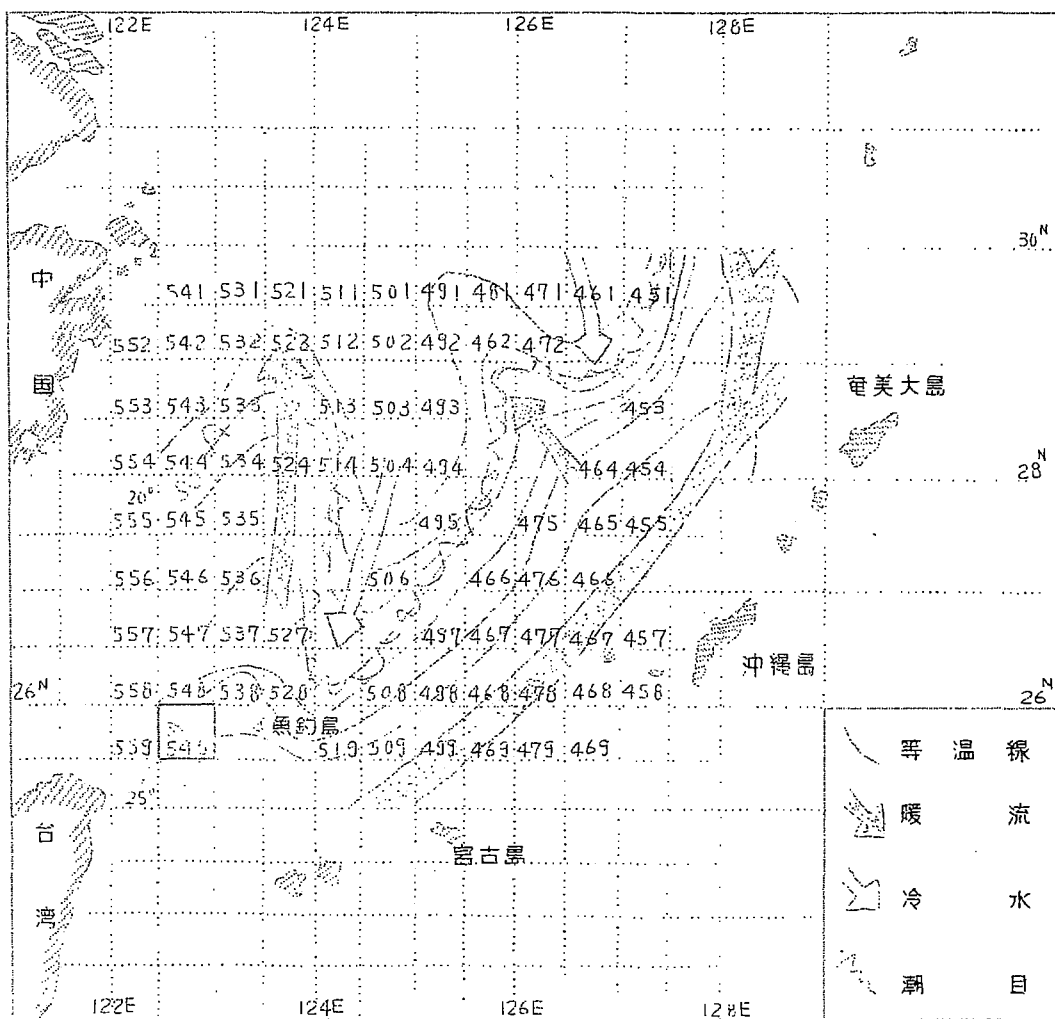
昭和36年5月下旬

海洋の概況

長崎海洋気象台

東シナ海及び黄海の水溫は一齊に上昇した。中でも黄海の南部及び薩南海域、対馬流等の黒潮は先旬よりも2前後暖かくなり、又平年よりも暖かくなった。又黄海冷水は次第に勢を増しており、流れの中心もソコトラの北西寄りに移動した。

大陸よりの沿岸水はバーレンの南方にはりだし、漁区532、544付近は著しい潮目となっている。今後水溫はしばらくゆるやかに上昇するが、大陸側周辺では潮目の移動がはげしくなり、九州近海では二重潮の発生する恐れがある。



東海さば漁況及海況

昭和36年6月上旬

海洋の概況

長崎海洋气象台

東シナ海及び黄海方面は梅雨にはいり雨が多くなったので水温の上昇も鈍くなった。中でもソコトラ及び台湾北方、パーレン等の漁場には塩の甘い沿岸水がはり出し、潮目の移動も多くなった。又平年に比べると東海中部の大陸棚を中心に2°~3°も低く、その他も南西諸島のまわりが暖かい、他は殆んど低目になっている。

今後は低気圧の通過や前線の北上で水温の上昇は少なく、月末には一時回復するので暖かくなるが、海況の変化は一層はげしくなる見込み。

